男女貞潔之理想　會長　島田三郎

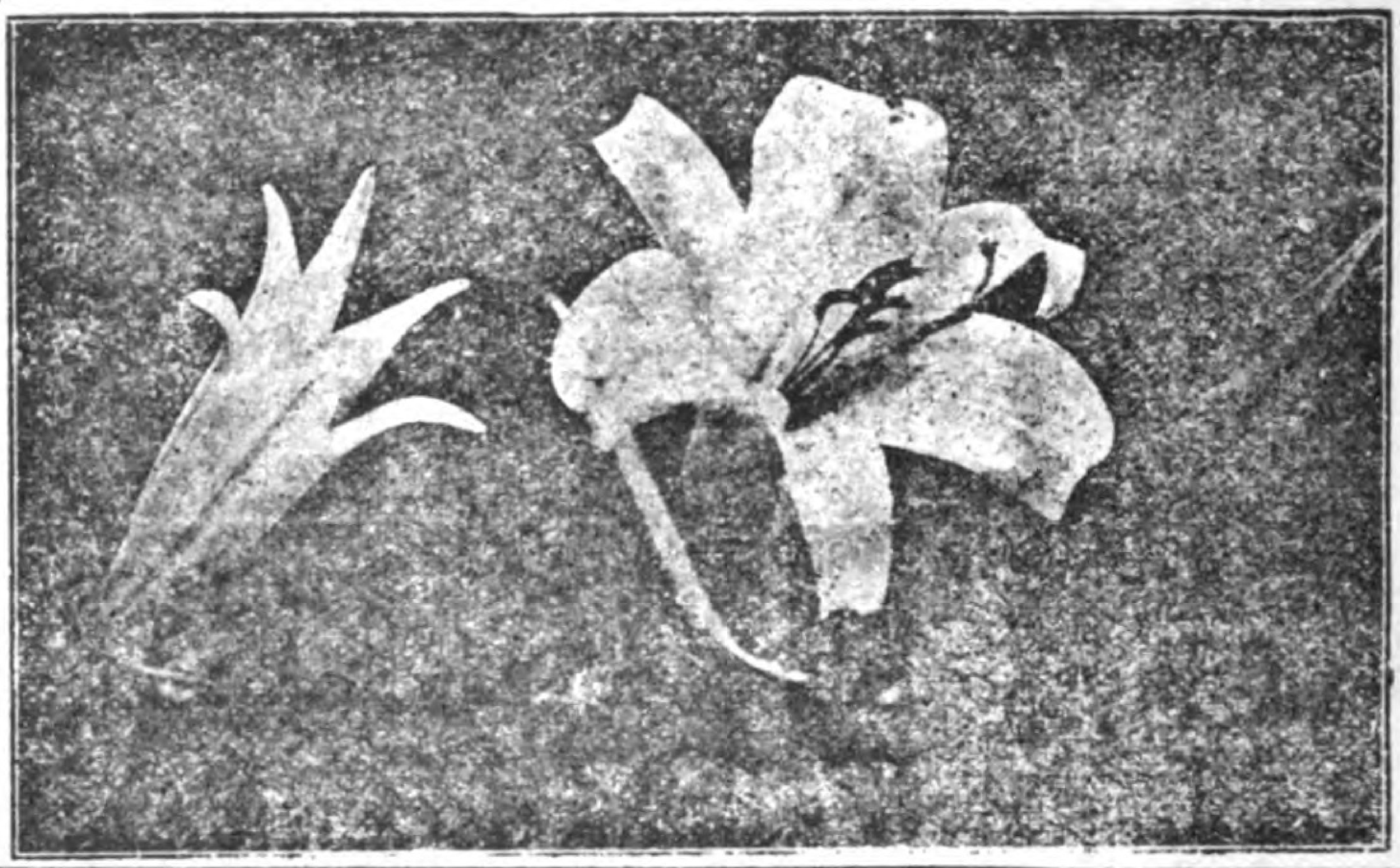
公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

廓清

第十巻第一號

東京　廓清會本部發行

廓清
THE PURITY
大正九年一月
第十巻第一號



廓清時言

婦人界の黎明來らんとす

平塚明子女史等の新婦人協會にては、今議會に、治安警察法第五條第一項中の『五、女子』の三字と第三項中の『女子及』の三字を削除され度き事、卽ち女子に政談演說傍聽の自由集會結社の自由を求むるの請願と、花柳病有毒男子の結婚を制限し、民法親族編第三章婚姻の規定中左の意味を追加せんとする請願とを提出することゝなりたり。

(一)現在花柳病に罹れる男子にして感染の危惧あるものは結婚するを得ず
(二)結婚せんと欲する男子は先づ相手たる女子に醫師の健康診斷書を提示し花柳病患者にあらざる旨を說明すべし
(三)此の證明書は婚姻の屆書に添へて戸籍吏に提示すべし
(四)結婚後花柳病を隱蔽せる事を發見せる場合は婚姻の取消をなす事を得
(五)結婚後夫が花柳病に罹れる場合又は病毒を夫より感染したる場合妻は離婚を請求する事を得
(六)夫より病毒を感染したる場合は妻に離婚後も男子に對し全治迄の生活費、治療費及其の慰藉料を請求する事を得

右は吾人の久しく絕叫し來りたる處にして、漸く婦人の具體運動となりたるは慶賀すべく、吾人は熱心之が通過を要望する者なり。

愚劣なる晶子女史の反對論

然るに與謝野晶子女史は、橫濱貿易紙上左の如き反對論を公にしたり。

感染性を持つた怖るべき病症は花柳病に限りません。花柳病と共に結核的疾患も今は世界的の病症てす。醫學的に遺傳性及感染性の病症を列擧するなら、天形病を初め猶此外に幾種もあるてせう。殺風景な花柳病の名を以てせずに、總括して單に病氣診斷書とする方が穩當ては無いてせうか。また男子のみに診斷書を要求するのも不公平だと思ひます。婦人科や泌尿科の醫師達の確言する所に由れば、今日は女子の花柳病も亦激增して行くと聞きます。殊に我國の妙齡の女子に結核患者の多いことは統計の示す通りてす。

其れよりも私が一層疑問とする所は、平塚さん達は私と同じく戀愛結婚を主張して媒酌結婚を排斥される筈です。私達に取つて結婚は戀愛の結果ですが、平塚さん達は戀愛が成立して、さて結婚と云ふ形式の一段に及んで、男子が秘密にして居た花柳病があるために診斷書の提供を拒んだら、法律の冷かに命ずる通りにその戀愛を即時に放棄される積りでせうか。私の體驗を根據として云ふと戀愛は遙かに高く政治や法律や科學や論理やの彼方にあります。熱愛する一對の男女の仲に診斷書の有無が何であらうぞ。私は我國の婦人運動の先驅者達が、一生戀愛を體驗する事の出來ない歐米の不幸な獨身婦人や基督教婦人の偏倚した行動に範を取つて、最も自由で無ければならない熱情の生活までを法治國化するやうな粗野な運動に就ては、三度反省して頂きたい

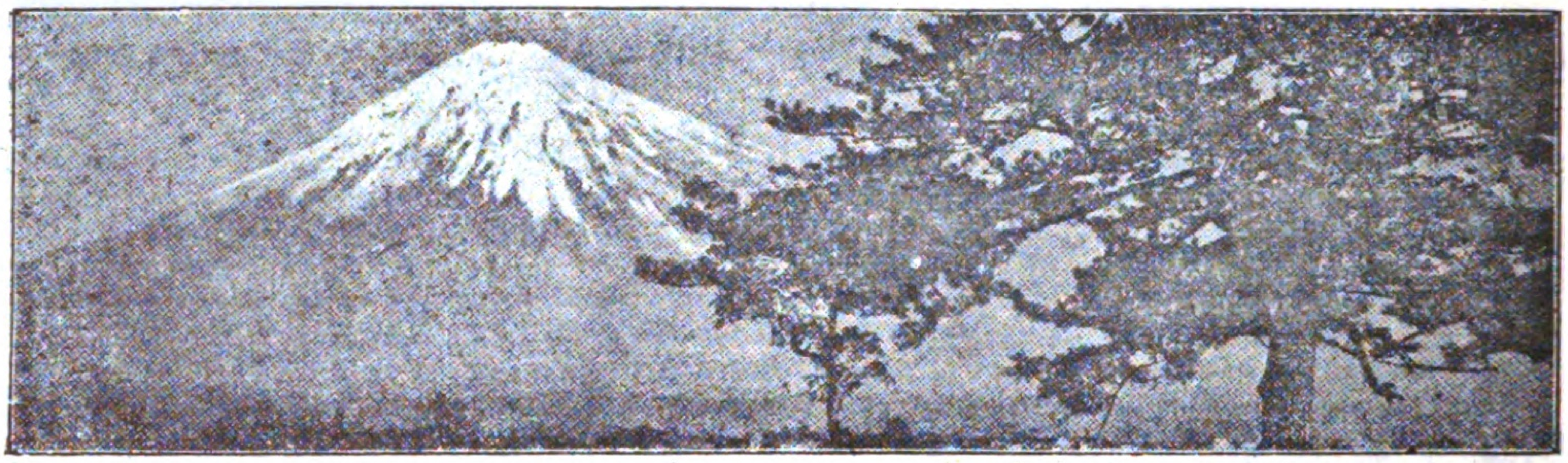
反對論か修正意見乎

與謝野女史が婦人界の先覺者たるは吾人之を否まずと雖も前掲の評論は最も露骨に男女道德に關する無自覺を暴露したるものといふを得ん。先づ反對論の第一たる『花柳病とせずに病氣診斷書とせよ』とあるは、反對論に非ずして一種の忠言と見るを至當とす。病氣診斷書ならば可也花柳病診斷書ならば反對なりといふ意ならんには、既に自家撞着也。假し十善ならずとするも善ならば即ち責む可し。明子女史が特に他の遺傳的傳染的疾患に先達つて花柳病の取締を求むる所以のものは、實に此病が醫學的善種學的疾患たるに止まらず、道德上の大問題たるに因する爲なる可きや必せり。

第二の反對たる男子のみに診斷書を要求するは不公平なりとの意見は、吾人も之を賛す。惟ふに明子女史等は婦人の立場より男子にのみ求められたるものならんも、既に其必要を認め法として要求する以上、男女の區別をなすは確に非也。然し對意見に非ず。

戀愛を侮辱する晶子女史

第三の戀愛觀よりの反對は、晶子女史自身最も大切な論點となし、而も「粗野な運動に就ては」といふ程の文字を結論に用ひて反對の意を明白にし居れるが、余の特に論題としたるも女史の此奇怪なる戀愛觀を攻擊せんが爲に外ならず即ち『さて結婚といふ一段に及んで男子が秘密にして居た花柳病があるために、診斷書の提供を拒んだら、法律の冷かに命ずる通りにその戀愛を即時に放棄される積りでせうか。私の體驗を根據としていふと戀愛は遙に高く政治や法律や論理やの彼方にあります。熱愛する一對の男女の仲に診斷書の有無が何であらう』。に至つては亂暴も亦極まれりといふべし。本論によつて晶子女史の戀愛觀を覗ふ時は、熊公八公の盲目的衝動と擇ぶを苦しむに至らん。吾人も亦戀愛結婚の唱道者なれども、吾人の戀愛は一男一女の人格的結合を意味し、其戀愛は第一義的に倫理學的評價を基礎とすべきを力說す。故に若し誤つて戀愛成立するとも幸にして結婚前男子の花柳病あることを發見せんか『法律の冷かに命ずる通りに』に非ずして高尚なる人格の發露の自然の結果として、其の戀愛は誤解の上に成立せるを知つて冷却すべし。蓋し花柳病の存在は明かに其人の人格を毀傷する最も雄辯なる確證なれば也。晶子女史が『診斷書の有無が何にならうぞ』といふに至つては、神聖なる戀愛、神聖なる結婚を侮辱するの甚しきものといふべく、『私の體驗によれば戀愛は遙に高く、政治や法律や科學や論理やの彼方にある』と。然れども貞操即ち人格を無視して何處に戀愛の尊貴ありや（江南）



大正九年を迎ふ

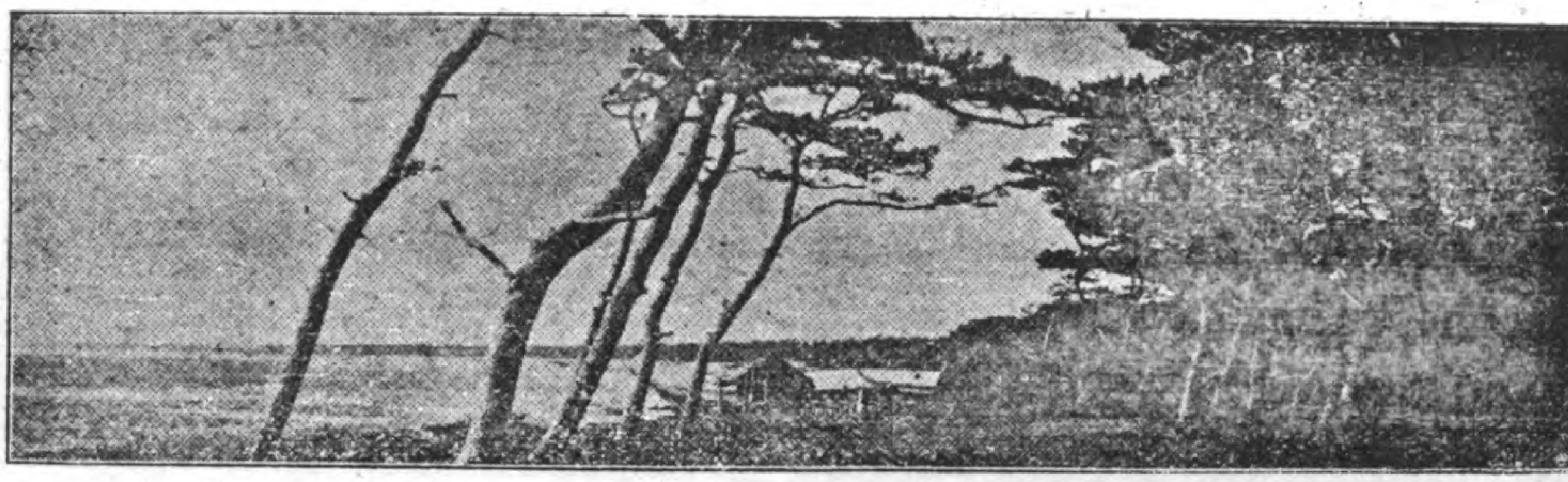
廓清會長　島田三郎

□世界の潮流と隔る事甚しき我國の思潮

時の經過は電光よりも疾く、大正も早や九年を迎ふることになつた。昨八年は休戰の條約整つて平和會議の曙光を迎へ希望に充ちた年であつた。我日本の位置は戰爭の中心に遠かつて居つた爲めに、戰爭の期間事業繁榮の光りに醉ふて戰後の結果如何を考慮する者が甚だ少かつた。

古來平和會議と云へば領土の分割とか權力の均衡とか、戰爭によつて攪亂せられた後始末をつけることに限られて居つたから、多數の我國人は講和會議の問題はやはり前例によつて權力平均の問題に止まると思惟し、新しき問題に逢着することを豫期しなかつた。特に政府は青島や南洋の問題を除いて別に我國の關係すべき大事はないと思ふて居つたから、特に委員を派遣するの必要もなく、英佛駐在の大使を其儘委員として列席せしむる位の考に過ぎなかつたが、其後國論はそれでは餘りに列國との釣合が取れぬといふ説が起つたので遂に西園寺公爵を特派することゝなつた。乍併公爵自身も單に其位置と經歷との釣合に止まつて、實地に大なる活動をする必要もないと思はれた。故に急遽出發することもなく印度洋を閑行して悠々巴里に到着することゝなつた。

日本の内地の空氣は斯様に悠長であつたが、世界の形勢は之と正反對で、過去の歷史の平和會議と其性質を異にし、此大戰に攪亂せられたる其慘禍に懲りた人心の要求に應じて、後來の平和を確保するに重きを置き、國際聯盟の問題が第一に議せられることになつた。更に領土の分割以外に勞働問題が議せらるゝことゝなつた。是が内外主張の全く相異る特種の徵候で、我國の思想が世界の潮流と相隔ること此一事に於ても明白である。されば巴里の會議を傍聽して歸つた民間の論者は、早くも社會改造の聲を揚げた。政治の諸問題に對することは勿論であるが、凡ての問題が社會的改造の色を帶びて居るのが其特長である。財產に對する觀念、人類に對する觀念、男女の關係に對する觀念、從つ



て教育其物に對する觀念等凡て根底に變化を呈してゐる。此れが實地の問題に影響すること非常に大なるものあるは元より其處である。

□社會改造も人心の改造を根本とす

一言に約ずれば、國内の舊思潮と海外より寄せ來る新思潮と相觸れて其間に衝突すべき時期に入つてゐる。而して此變化に對して新に起る二つの思想がある。一は海外の急潮を防がんとするものであつて、他は内外を調和せんとするものである。防がんとするものは時代を理會せざる處の舊思想であつて、防がんとして防ぐ能はざるは大勢である。交通不便にして東西の區分儼として存したりし時代に於てすら、極西に現はれた變化は極東に迄影響を現はした。維新の變革は歷史的に云へば一種のデモクラシーの現象である。純然たる内部のみの變化ではない。内部に欝積した不平均が外部の思想に觸れて平均を得んとする處の變化であつた。鎖國の制度が破れた結果である。五十年以前交通不便の時代にてすら此の如き關係ありとすれば、今日の世界に於て歐米を動かす思想が東洋に至大の影響を與ふるは、防がんとして防ぐ能はざるものである。是を調和して從來の國情と衝突せしめぬといふことが大切である。

之に就ては二つの方面から改革を要する。社會の改造といふも要するに人心の發動の結果であるから、人心が此要求に應ずる徑路を取らなければならぬ。人心が不眞面目であつては到底社會の改造を遂ぐることは出來ない。今日に於て我國の必要條件は實に人心の眞面目ならんことにある。故に社會の徹底的改造は先以て人心の改造卽ち覺醒を出立點とする。

内外の思想を調和するには人心の奥底に秘む或者を自由に發露せしめねばならぬ。如何なる思想と云へどもそれが眞實であるならば之を自由に發揚せしめ、其歸趨を妨げざるを以て進歩の要諦とする。僞善と形式的約束とは之を退けねばならぬ。慣習は重んずべきであるが、其慣習の或者は是耶非耶之を觀察識別することが必要である。是は舊例であり慣習であるからといふて、其事自らを觀察せずして其儘に存することは變化の時代進歩の時代に應ずるの道ではない。新しきが故に是とすべきでもなく、古きが故に非とすべきでもない。根底は眞實の言ひ現はしと自由の批判とを必要とする。

□今日に必要なるは誠實と公正と

惟ふに世界の今日の動搖は舊物に滿足せずして新時代に入らんとする出產の苦難である。之と同時に海外の變化が我國人に及ぼす急潮は、內地に居つて外部を觀察せぬ人々の考ふる所と非常の懸隔がある。巴里に於ける會議の光景を目擊して歸朝した人々は、其位地職業の殊別に拘らず、日本の光景が餘りに海外諸國と異つて居るに驚駭して、各方面に革新の聲を揚げてゐることは、新聞に續出する通りである。某貴族は爵位を有するを誇りとするの觀念を失つたと傳へられて居る。此等の人々が海外に變化の時を過さずして、故國に安座して居られたなら、恐らくは斯かる意見を胸中に生ぜぬてあらう。

世界を通觀すれば何れの思想もまだ勝利を占めて居らぬ。幾多の思想が錯然として並立して居り、爭鬪して居る。此內から二十世紀を支配すべき處の一大思想が發生するに相違ない。發生せねば人類は如何なる運命を取るか前途不明である。併し進んで止まざるは大勢であり運命であるから、斷じて悲觀するを要せぬ。要するに人は眞實であれば從つて眞正の智慧は此れより沸くであらう。外觀は如何に美でも不眞實てあるならば智慧も發生せねば勢力も起らぬ。今日に於て我國民は第一に誠意を必要とし眞實を必要とする。自由公平に新しき說を觀察し、善に遷るの雅量を以て人心の改造より出立し、社會改造の大事業を完成せねばならぬ。

大正九年の初頭に立ちて、新しき今後の一年を豫想すれば內外に於ける萬事は、此短期間に如何なる變化を呈するか、至大の興味と希望とを以て、會員諸君と共に新年を迎ふるものである。

支那婦人と日本婦人

山脇房子

昨年中に起つた思想上の動亂は歴史上特筆大書せねばなりますまい、元來人間は活動を好む性質を持つて居るものですが、私などは隨分面白い世の中になつたものだと喜んでゐます。佛蘭の文豪ビクトルユーゴーは大變貧乏な家に生れたけれど、賢母の血を享けた人で孫の誕生を祝した言葉に『職分に生れ自由に活き進歩に努めて光明に死せよ』とあり、又カーネギーの母は子守歌の合間々々に『勞働は神聖である働くほど愉快なことはない』と愛兒を祝いたと云ひます。少くとも最近に於てユーゴーの言葉が其儘實行される樣になり、カーネギーの母の信條が肯定される樣になりました。然るに現在の日本の婦人は一向進歩に努め其責任を自覺せうとせず、己に關聯のある事を自分自身にやり遂げる丈けの力なく、例へば男が頻りに口を極めて說いてゐる參政權を逸早く得やうとはせず、折角大學を解放しても志願者がない有樣です、私等は參政權を得て必ずしも夫れを實行し議員にならなくてもよろしいが、與へられぬ事は不都合だと思ふので、兎に角婦人達は從來の因習を打破し島國根性を棄て共同一致して事に當る勇氣と度量がなければなりません、學校では隨分氣の利いた新智識を植つけられ乍ら家に歸ると無教育な母や姑のしたまゝを受けついで遣つてゐることが、第一の誤謬で、之からは出來るだけ外國婦人の長所を採り、高等教育の發達普及に努力し、女工事務員交換手等許りでなく更に高尙な才能に依つては男子同樣の職業を持たせるのが肝要です、人は智情意が圓滿に發達して居らねばならず、殊に意志は飽くまで強くありたい、先般の勞働大使の婦人顧問に適當な人がなかつたなどは實に恥かしい話です。

此點では支那婦人の方が却て偏てなく萬事優れてゐはしないでせうか、私は此一大轉機に際しより一層の根本的改革を行ひ、近い話では全國の女教師が食料硏究の爲に上京して來たとか、平塚雷鳥さん山田わかさんの女學生寄宿舍設立とか、女工の演說會とか云ふ企てがまだ〳〵多くなつてもよいと思ひます、だが或ひは本年中に之等の希望が悉く遂げられるかも知れません。

現代の勞働問題（三）

早大教授
廓清會副會長　安部磯雄

勞働組合の一つの目的はストライキの爲めにあるといふ事に就て述べたが、元來ストライキといふものは、今日の戰爭に好く似た點があると思ふ。其れは先づ非常を要する事と、所謂冗費が驚く可き程消費されるといふ事である。最近我國に於て頻々として惹起されつゝあるストライキを觀るも、如何に多額の冗費が消失されて居るかといふ事が考へられる。過般足尾鑛山に於けるストライキは、僅か一週間の間に資本家と勞働者との合計損失高は、約百萬圓に達したといふことである。

□ストライキは之れを是認す可し

私は大なる立場から觀て、戰爭が絶無になる事を冀望するやうにストライキも又た根絶する事を希望して止まないのである。けれども理想から云へば勿論然うでなくてはならないが、現在の社會狀態から鑑れば此の極めて忌む可きストライキも復た淘に止むを得ない事であつて、類ひの甚だ似て居る處の戰爭よりも幾分かは、其處に辯護す可き幾多の理由があると思ふのてある。何故かなれば戰爭にあつては一方には必ず或る野心があつて、其野心を完うせんが爲には他の弱國を征服しようとする意味が含まれてゐて、それが戰爭を惹起す原因となるのてあるから、孰れかの一方は或る憎む可き點がある。然るにストライキにあつては、もと〳〵勞働者といふ弱い者が、强者の資本家に對抗しようとするのであるから決して資本家を征服しようなどゝいふ考へはない。其處が戰爭と異なれる點てあつて、多くの人達がストライキを是認するのも卽ちそれが爲めてある。若し資本家が勞働者の正當なる要求を穩やかに認容するといふ事てあれば、無論ストライキなどゝいふものが起らう筈はないのてあるが、さもなくて資本家が資本といふ大なる力を賴むて、勞働者に臨む場合に於ては、勞働者は勢ひストライキを起さゞるを得なくなつて來るのてある。此の意味に依つてストライキといふものが一般に是認せられてゐるといふ事は、歐米各國に於ける狀態を觀るも首肯される處であると思ふ。

□眞正なる勞働の意義

元來勞働者が自分の仕事に從事するのも、又從事せないのも共に自分の自由てあるといふ事を歐米各國に於ては認められてゐる。だから穩やかに自分の家庭に在つて寢て居る場合

に、何人が是れに向つて無理に引張出して就業せよと命ずる權利があるてあらうか。如何なる理由があるにもせよそれは無論出來ない事てあつて、無理强ひに就業させるといふ權利はないのてある。凡ての事は法律上の問題に歸するが、權利と義務とは必ず相平衡す可きものてあつて、其の輕重の差がある可きものてはない。此の意味から推して考へて觀ると、勞働者だからと云つて別に勞働せなければならない義務はない筈てある。卽ち國家や資本家に對して何うしても働かねばならぬといふ義務はない。只だ自分が働かねばならないから働く丈てあつて、他人が勞働者は働かざる可からずなどゝ就業を强要するといふやうな事は絶對に出來るものてはないのてある。是れを裏から謂へば、現在の社會組織は勞働者に對して働かなければならない處の權利といふものを與へてゐないといふ事になる。私の考へては人間は働く權利と義務とがある可きものと思はれる。然るに現在の社會に於ては、未だに人間に働く可き權利といふものを與へてゐないから、失業者は働けぬのてある。働きたくとも働く可き業を直に得るといふ事が出來ないから、止を得ず遊むて居らなければならない破目に陷つて畢ふのてある。此の場合に失業者は國家に向つて業務に就かして貰ひたいと請求する權利が欲しいと思ふ無論之れは理想的の考へてあるが、然ういふ事にならねば働く可き義務も生じて來ない譯てある。若し働く可き權利と義務とを認めるといふ事になれば、それこそ何事か國家に起つた際には何うしても働かねばならない義務があるのてあるから、人間たる者は何人と雖も一生懸命に働くといふ事になるのてある。

□勞働に對する權利義務

此の問題に就ては先進國と謂はれる亞米利加でも、未だに徹底してゐないやうに見受けられる。嘗て石炭坑夫が大なるストライキを斷行した際、或る雜誌に書いた論調を觀ると『斯く資本家と勞働者の爭ひの爲めに、一般消費者迄が其の側杖を食ふのは實に酷い事てあつて、消費者は資本家や勞働者に何の怨みも持たない筈てある。』といふ事てあるが、熟く考へて觀るとそれは寔に可笑しい事と思ふ。何故かなれば謂ふ迄もなく社會は一つの共同團體、卽ち有機的團體てあるならば其の社會に起つた事件に對しては何等かの責任がなければならない。恰度我々の身體の或る一部が苦痛を感じれば、それが延いて身體全部の働きの上に影響すると同じ樣に、全體が其の連帶責任を負はねばならぬのてある。或る一部の人が仕事を得るに就て非常なる困難に遭遇し、殆ど餓死せんとするやうな悲慘なところまて陷つてゐる時に、消費者は何等の關係がないと謂つて其の共同責任といふ事を考へずに、勞働者を見殺しにして置きながら、ストライキなどをするといふのは非常に困るといふ議論は何れが不都合てあるか、深く考へねばならぬ點てはなからうか。世の中には斯る考へを持つてゐる者が隨分多いやうてあるが、現在の社會に於ては何人も仕事を爲さなくとも不都合てない處の權利があるから止むを得ないのてある。私の理想から謂へば、何うしても人間は仕事を爲す權利があると共に、又た爲さねばならない義務があ

ると思ふのである。

□勞働者は大度量を要す

英米では大體に於て勞働者のストライキは、彼等の勝手であつて他の者の容喙を爲す可きものでないといふ考へから、政府當局者は手を出さないで觀望してゐるやうである。只だ勞働者が亂暴する時か、又はストライキ中に他の者が其の代りに就業するといふやうな事があると、ストライキを爲した者が怒つて、其の者を擲るといふ虞れがある場合に、初めて國家は警察をして是れを鎮撫せしめ、又は軍隊を出して鎮壓せしめるといふ手段を取るのであるが、是れは當然の事であると思ふ。又た然うした處で一向差支がない。だからストライキを起す人達は、是非とも大度量を持つて遣るといふ事でなければならぬ。そして政府が警察をして干渉せしめるのも又た軍隊を出すのもそれは自由であるといふ迄になる事が肝要である。即ち他の勞働者がストライキを破壞するといふ事に就ても、それは破壞する者の自由であるといふ處まで行かなければならない。故に將來の問題はストライキを破壞される場合は何うするかといふ事に就て考慮しなければならぬのである。それには勞働者が倚う一步進むで考へる必要があると思ふ。それは何か。畢竟ストライキを起した場合に、それを破壞するやうな人が起らぬやうに團結すれば良いのである是れを廣く云へば直接其のストライキを起す人達以外の、所謂放任して置けばストライキを破壞する人達をも包擁してストライキを起すやうにすれば、決して心配する必要がない筈であると思ふ。

元來現在に於ける歐米各國の勞働組合といふものは完全なものではない。組織其の者が既に貴族的であつて、皆老練な勞働者のみが組合員になつてゐて、不熟練な勞働者は其の仲間に入れないといふやうな狀態であるから、階級を作るといふ點に於て既に理想的のものでない許りか、一朝ストライキを起すといふ場合に於て、不熟練な勞働者が其の代りに就業するといふやうな事があつて、何うしても其の目的を達する事が至難になつてゐる。だから將來ストライキを起す際には何うしても、其の不熟練な勞働者をも打つて一丸と爲し、事をしなければ其效果を擧げる事は出來ないといふ理由から、今日では其の方面の運動が起りつゝあるやうである。然うなれば當然ストライキといふ目的が效を奏するに相違ない。

□治安警察法を撤廢すべし

現代に於てはストライキといふものを是認しこれに干渉しないといふ事が通例になつてゐる。私は此の意味から我國に於ける政府當局者が、治安警察法第十七條といふものがある爲めに、ストライキの主導者を檢束するといふやうな手段に出てる事があるけれども、其の人間を束縛せない處を觀ると其の點はそれで一向差支がないと思ふ。けれども將來我國に於て勞働組合といふものを是認するといふ點から考へれば、ストライキは勞働者の自由であると之れを表明しない迄も、其の儘遣つて行けば治安警察法第十七條といふものは何うしても取除かなければならないと思ふのである。さもなくばス

トライキといふものが效を奏する事が出來ない場合があるから、或る意味に於て此の條文はストライキ禁止の爲めに設けられたものとなつて畢ふのである。何れの國にも我國の政府當局者のやうに治安警察法第十七條といふやうなものを設けて、場合に依つたら干涉をしようとする國はない。只だ資本家が最も勢力ありと稱せらるゝ亞米利加に於て、稍々之れに類似した慣習があつて、偶々彼等勞働者をして壓迫しようとするやうな場合があつた。其の例を見て我國の政府當局者が治安警察法第十七條といふものを取去らぬのであらう。前號にも記した彼國に於ける石炭坑夫のストライキの時に、其の主領株をば足止したといふ事であるが、それは檢事に彼等を拘留して置くといふ權利を與へて置くが爲めであつて、さういふ特別な手段を採るといふ事を應用してゐるのではなからうか。けれども英國の或新聞は這麼ことを書いてゐる。主謀者のないストライキは誰しも成功しないやうに考へてゐるのは誤りであつて、決して其麼ものはないと云つてゐる。何故かと謂へば一般勞働者に訓練といふものがあるから、譬へ主導者が撿束されても其の次に又た第二の主導者が現はれ、復た第三の主導者が出來るから、主導者のみを撿束したからとてそれでストライキが熄むものではないといふ事であるが、我國に於ても彼の足尾銅山のストライキを觀るも後から〳〵と主導者が現はれて一向破れなかつた。實に面白い事實であつて、訓練された勞働者といふものは斯樣に主領株が續々と出て來るのである。

　將來我國に於ける勞働問題を解決するの手段方法は、何うしても前號に於て述べた通り矢張勞働組合が必要であつて、同時に又た治安警察法第十七條の條文を撤廢することが肝要である。そして勞働者のストライキは是れを自由に遣らして置くといふことが、最も安全であつて、然も當を得た策であると思ふ。

□ストライキに腕力を禁ずる理由

　さて是迄は勞働者以外の人達に對する事に就て述べたのであるが、之れから勞働者に對して直接注意して置かねばならぬ點に就て述べねばならないと思ふ。それは先づ第一に、我國に於ける過去の自由黨といふやうな時代と同樣な運動方法を取つてはならぬといふ事である。勞働問題の將來といふものは殆ど永久に亘る處の問題であつて、一朝一夕にして解決し得らる可きものではないから、此の意味に於て劈頭の運動に勞働者自身の立場に不利益なる汚點を付けるやうな事があつてはならぬ。卽ち初めから警察側と衝突したり、或は亂暴を働いたりして暴力に依つて解決しようとするやうな事は、是れを絕對に避けねばならぬ。何處までも穩健に順序を踏むで遣らなければ、歸する處は自分達の不利益といふ結果に畢つて了ふ事になる。何故かなればそれは政府に好き口實を與へる譯であつて、勞働者が亂暴を働くから止むを得ず政府は警察又は兵力に依つて、之れを鎭壓するのであるといふ云ひ分を持たせる事になるからである。それでは折角惹起したストライキの目的といふものが達せられない。此の點は勞働者の熟く〳〵考慮せなければならぬ處である。だから少しも

腕力沙汰に及ぶやうな事を爲さずに、穏しく事を運ぶといふ事が是非とも肝要であつて、然うすれば政府當局も無暗に干渉する譯には行かないから、勢ひ寛大の態度に出て之れを觀望するといふ事になるのである。

□名刀は拔かぬ處に價値あり

是れはストライキとは少しく意味が違ふけれども、昨年日比谷公園に於ける普通選擧問題の示威運動を許した事があつた。ストライキの場合も之れと同樣に勞働者自身が餘程自重して掛らなければならぬ。然うすれば演說なり或は示威運動なりが出來るのであるから、其處に眞の宣傳が行はれるといふ事になる。此の意味から腕力に訴へる程馬鹿々々しい事はないのであつて、團體さへ大きくなればそれで立派に目的を達し得らるゝのであるから、餘程此の點に就て注意する必要がある。

政宗の名刀は容易に之れを拔く可きものではない。鞘を拂はなくとも英米の如き二百萬乃至五百萬といふ一大團體が團結すれば、腕力を用ひなくとも立派に解決し得られるのであるから、徒らに血氣に逸つて仕損じするやうな事があつてはならぬ。政宗の名刀は拔かぬ處に其の偉い點があるのであつて、非常の場合を除くの外は決して拔く可きものではないのである。拔く可き時には何うしても拔かねばならぬが、無暗に拔いて振廻すやうな事であつては、丁度狂人に名刀を與ふると同じ事であつて、何うしても危險を免れないから遂には取上げられて畢ふといふ事になる。だから常には之れを祕藏して置いて、何うしても解決し得ぬといふ場合があれば、それこそ其名刀の價値を示すのも强ち惡い事ではないのであるから、大團體が出來上る迄は穏やかに遣る必要がある。勿論大團體になれば拔く必要はないのであるが、何れにしても矢鱈にストライキといふ名刀に訴へたがるといふ事は之れを嚴重に愼まねばならない。

現在でも何うかすると自由黨時代の氣持を有する人がないとも限らぬが、それは勞働問題の爲めに甚だ不利益な事であつて、若し然う云ふ人達があるならば充分注意して遣るといふ事が何よりである。而して勞働者は全然其麼手段を用ゐないやうにしなければならない。さもなくば何うしても警察の手を煩はすといふ事になるから、勞働者の自由といふものを失ふ事になつて畢ふ處れがある。

□勞働組合とストライキとの關係

近來到る處に於てストライキが頻々として起きつゝあるやうであるが、是れは世の中の景氣が好いからであつて、外國人などが此の狀態を觀たならば定めし危險な事と考へるに相違ないと思ふ。何故かなれば第一食糧といふものがない。ストライキを解決する迄働かずに居られるといふ貯蓄がない。然るに勞働者の要求が容れられるといふ事は、是れ實に時勢の賜であると謂はねばならぬ。だから一朝不景氣が來るか、又は平常の狀態に復歸するといふ時代が來れば、餘程考へないとストライキといふ刀に依つて、自分自身が傷けられる虞れがないとも限らないのである。

要するに何よりも先づ勞働組合を組織して、ストライキに處する糧食の貯蓄を爲し、一週間或は一月位は働かなくとも差支がないやうに準備するといふ手段を考へるのは當然の事と思ふ。是れを戰爭と同じ結果から謂へば、戰爭といふものに依つて莫大なる犠牲を拂ふけれども、一面から觀ればそれに依つて大に學ぶ所があると同樣に、勞働者も又たストライキといふものに依つて敎へられる處があると思ふ。だから眞の目的を達するには何うしても莫大なる損失といふものを考へねばならぬ。そしてストライキを起して其の解決を見る迄は、飽く迄も徹底せざれば止まざるの覺悟を以つて辛棒さへすれば、事は容易に解決する筈である。當然解決しなければならぬ。（以下次號）

◇頻々として起りつゝある◇

大學昇格運動

早大教授 安部磯雄

◆現在續々として起りつゝある多くの專門學校の昇格運動は、表面から觀ると寔に勝手氣儘な要求のやうに觀られるけれども、其實内容に立入つて思遣れば決して無理な要求ではなくて、寧ろ當然な事と謂はればならないのである。

◆從來私立法律專門學校、たとへば早稻田、明治、中央、專修、日本等の學校を卒業したものには學士號を付けても差支がないといふ事になつてゐた。早稻田を卒業したものは早稻田何々學士とか、明治を卒業したものは明治何々學士とか、單に何々學士といふ事は帝大と同格になる譯だから、それを區別する爲めに必ず學校名を冠しなければならないといふ事が條件で、學士號を名乘つてゐたのである。

◆然るに這般の大學令の改正に依つて、今後は專門學校であつて新大學令に依る資格さへある學校なら、其處を卒業した者は帝大の卒業生と同じやうに、單に法學士とか又は文學士とか、學校名を付加へる必要がなくなつたのである。だから今後は同じ所學士でも何れの學校を出た者かゞ一寸判らぬといふ形になつた。是れが抑も他の專門學校生徒をして昇格運動を起さしむる原因の一つになつたのである。

◆我國位肩書を尊重する國はない。だから學士と謂へば一も二もなく偉い者扱ひにして、何人と雖も其の人間の眞價を問はずに、學士だから偉い人だと頭からさう信じて了ふのであるが、それは何故かといふのに學士は大學校を卒業した人であるからだといふ理由からである。大學といふ文字が何れ丈け日本國民の頭に偉く響くか、蓋し思ひ中ばに過ぐるものがある。

◆日本人位此の大といふ字のすきな國民は他にないと思ふ。支那てさへ大といふ文字は餘りに使つてゐないやうに見受けられるが、日本人は兎角大の字を無暗に使ふ。假令へば大問題だとか、大演說會だとか、大勉强だとか、大賣出しだとか、兎に角さういふやうな譯て、大の字のつくものは何となく普通よりはズツト偉いものゝやうに考へてゐる。此の意味から觀ると學校にも小、中、大の三段の區別を置いてゐるから、矢張大の字は偉いといふ事になるのである。

◆文明各國に於ける學校の格級區別を觀ると、日本のやうに決して小、中、大などゝいふやうな文字を以て區別してゐない。恐らく世界の文明諸國中、獨り日本のみが斯る命名をしてゐる丈であらうと思ふ。又た實際さうであつて、決してグレートスクール抔といふやうな文字は使つてゐる處を見られない。

◆然るに日本では學士は大學であるから偉い者であるといふ表面のみの考へから、會社でも銀行でも、乃至は官廳でさへも學士を歡迎する。他に其れ以上の學問智識ある人があつても、大學を出ないから所謂學士ではないからと云つて重く見ない。そこで青年は此風潮に順應するには、何うしても大學を出なければならないといふ心掛けになる。兎に角大學の卒業證書さへ握れば、それて先づ成功したやうな譯だといふので、只懸命に試驗を通過するのみの事を考へてゐる。之れは大なる誤りてあるが、さりとて現在の社會趨勢から考へれば無論當然な話てあつて、之抔も餘程考へればならぬ事てある。

◆斯樣な次第で現在の大學令には種々な缺點があるのであるから之れは何うしても大學校といふ名を廢するか、さもなくば卒業證書を下附しないやうにするか、乃至は大學といふ名を開放して、誰でも自由に附ける事が出來得るやうにすれば、決して昇格運動などは起らぬのであらうと信じてゐる。

◆恰度二人に旨い物を見せて置いて、一人に呉れて一人には呉れないと同じやうなものである。實に同情に堪へない次第である併し社會がもつと形式主義を打破して、實力本位にならなければ駄目てある。（談）

男女の性に於ける必然及び自由（一）

一條忠衛

一 必然及び自由の意義

必然と云ひ自由と云ふ語は、倫理學や哲學上の慣用語であつて甚だ六ヶ敷い性質のものであるが、その梗概を簡單に説明して見れば斯う云ふことになる。人間の意志と云ふものは自分で勝手に決定することの出來るものであるか、又は或る絶對力によつて豫定されて居るものであるか。換言すれば、吾々の意志と云ふものは自由なものであるか、必然なものであるか。これが發問の趣意である。これに對する解答は通説として下の如く信ぜられて居る。惟ふに自由と必然とは兩立して居るものである。人間の意志と云ふものは、自然によつて豫定されて居るものであるが、同時に人爲によつて決定されるものである。然らば何う云ふ譯でさうした矛盾律の觀念が一箇の意志の上に兩立するかと云ふに、それは斯う云ふ意味からである。人生僅に五十年と云ふ如くに、人間の肉體と云ふものは物質的に豫定され、生理的に規定されて居るのであるから、意志はこの制限以外には活動の餘地が無い。この意味から見れば、人間の意志と云ふものは豫定されたものであつて、必然的なものである。百歳まで生きようとしても生きることが出來ず、千里の路を一日に行かうとしても行くことが出來ず、二十四時間のあひだ續けて働かうとしても働けないものである。煙草を禁じようと欲しても禁ずることが出來ず、酒を止めようとしても止めることが出來ず、女色放蕩の汚行から遁れようと欲しても容易に遁れることの出來ないものである。人間の意志と云ふものは斯樣に自分勝手に出來ないものであつて、必然によつて規定されて居るものである。けれども一方から考へれば、人間の行爲と云ふものは坐作進退や清掃應對より、修身齊家治國平天下の事に至るまで、智慮によつてその是非を判斷し正邪を明にして、然る後にその意志によつて動機を決定するのである。意志は自動的に自己を決定して、その理想を選擇するのである。意志は自ら主體となり作爲者となつて、行爲を決定するのである。この意志と云ふものは、自己によつて人爲的に決定されるものであつて、自由的なものである。百歳まで生きることは出來なくとも、一朝病魔に襲はれた節には、醫藥療養を以て自己の生命を保つことが出來る。酒を絶たうと試みて絶つことが出來なくとも、自己の惡癖と薄志弱行とを日に三省して懺悔する習慣によつて終に之れを絶つことが出來る。

これに由つて觀るに、必然と稱するものは歸するところ自然界に於ける物質の運動を指すのであつて、自由と稱するものは生物界に於ける精神の活動を云ふのである。物質には惰性と云ふものがあり、物體がその靜止の狀態にあれば外界の力がこれに加はらぬ限りは永久にその靜止の狀態にあるが、それが運動の狀態にあれば外界の力がこれを制止させぬ限りは永久に運動を繼續するものである。これが自然界に於て必然と稱せられるものである。然るに生物界を見るに、この自然界の中に存在しながらも、尙ほ高等動物に至つては精神と云ふものがあり、外部の物質界より絶えず直接若くは間接の刺戟影響を受けて居ながらも、自動自發の意志活動と云ふものがあるので、その靜動に於て惰性の法則を超越して居る作用がある。惰性の法則から見れば運動しなければならぬ場合に反つて靜止して居たり、靜止して居なければならぬ場合に反つて運動したり、又はその分量に於て強大なる場合に反つて弱小であつたり、弱小であつた場合に反つて強大であつたりする。斯樣な有樣で物質界に於ける物體の運動と精神界に於ける意志の活動とは、その生起と原理とを異にして居る。前者は運動の主體となつたり作爲者となつたりすることが出來ぬけれども、後者は自ら活動の主體となりその作爲者となるものである。前者は必然によつて制約される存在（アル）のみであるが、後者は自由によつて發露される當爲（ベキ）である。人間の意志は實に一面に於ては自然界に於て必然によつて制約される存在であるけれども、又一面に於ては精神界に在りて自由によつて發露される當爲である。人格とはこの人間の意志に於ける自由の當爲性を云ふのであつて、萬物の靈長たる道德的存在者たることを總稱するのである。人格の實現とはこの人間の意志に於ける自由の當爲性を發揮して、自己を完成することである。それで吾々は常に現實を打破して理想を追うて進むのである。最完隨一の自己を創造して、無限に進化向上するのである。怠惰、逸樂、放縱、無爲、退嬰の行爲によつて固成される物質界の必然を身邊より出來るだけ遠き範圍に追ひ込んで、勤勉・努力、規律、智謀、進取の行爲によつて自由の領域を出來るだけ廣大にしなければならない。常に必然によつて支配される物質的な人とならずに、自由によつて開拓して止まざる精神的な人とならなければならない。これは人格の修養における唯一の要諦である。

さて斯樣な意味に於ける必然と自由とは、男女の性的生活の上に現はれる時には如何なる樣式のものになるか。男女の性的生活に於て、意志と云ふものが重大なる要素を爲して居るならば、その男女間の意志は必然的なものであるか、又は自由的なものであるか。男女の相慕ふは自然であるとも稱せられ、又た甲家の子息と乙家の娘とが自由戀愛を爲したとも傳へられる。妻が家庭の内に居て子を育てゝ居るのが自然の狀態であるとも主張され、又た女子の戸外に於ける職業は自由であるとも主張される。性の本體なるものは時には必然とも解せられ、時には自由とも解せられるので、果して孰れに於てその眞理を有して居るか。これを研究してその眞相を明にして見るのが本文の目的とする所である。

二　男女の性の意義

上來の目的を達するには、先づ男女の性に關する概念を明にした上でなければならない。男女の性とは何ぞ？約言すれば、男女とは何ぞ？これに對して卽答を與へることは極めて容易なことであるが、又た極めて困難なことである。一言を以て盡すことも出來るが、千言萬語を費しても滿足な說明にはならない。私は拙著男女道德論及び男女問題講話を以て、その說明の任に當つて見た積りであるが、未だ衷心の滿足を得て居ない者である。一般の生物學者には、男女の性とは生物がその種の保存及び繁殖を營まんが爲めの分業であると解したり、又は生體が個體的標準以上に發達を繼續して地球上の生活を連綿不斷ならしむる生殖的機轉であると解するのである。けれども、此の定義は唯物的な發生學的觀察に過ぎないのであつて、高等なる文化を有する人類に於ける男女の性を說明するには不適當である。吾々の人生に於ては必ずしも子孫の繁殖や繼續を以て目的として居る者では無い。子を有たぬ男子でも亦た女子でも、この人生に於て或る共通の意義を有つて生活して居る者である。子を有つて居る男女の生活のみが人間生活の正體であつて、子を有たぬ男女の生活が特別であると見るは誤解である。これは獨斷の甚だしい意見である。人生の目的は何人にも共通なもので無ければならない。人生に於ける究意目的であるからには、一箇の例外をも許さぬものである。人間の全體を通ずる普遍的な概念で無ければならない。手段的目覺の如くに特殊的な性質を帶ばないものである。然るに今日に於ける生物學者の揭げて居る性の定義なるものは、この點に於て人生の手段的目的に屬するものであつて、人生の究竟的目的の性質を示して居ない。併し乍ら人間も生物である以上は一般の生物的原則に從はなければならない。それで私は生物學と倫理學とを調和して、その上に性の定義を與へたいのである。私の意見によれば、男女の性とは人類がその生存上の目的を實現する爲めの生殖的使命であると云ふのである。この定義に從へば生物學者の企圖する定義も、倫理學者の企圖する人格實現の意味も同時に網羅されて、遺憾なく調和されるのである。但し『生殖』と云ふ文字の概念に就いて解釋の仕樣によつて、定義の內容が異る性質がある。自然科學としての生物學から見れば、卵子と精子との雌雄生殖細胞が分裂して、それが受胎して新生體となり遺傳と自然淘汰の法則によつて發育する一脈の進化的過程になる。その作用に於ては化學的又は物理的であり、その單元に於ては原子の化合であり、電子のエーテルに由る運動であると云ふことになる。これは生殖なるものを自然界に於ける必然的現象として解釋したもので、而も徹底的な說明である。併し乍ら、人類に於ける精神的文化の社會では、この論をその儘に奉ずる譯には行かない。生殖なるものは第一義的には如何にも自然界に於ける必然の現象であつて、本能的作用である。けれども、第二義的には人間の社會的生活に於ける道德的現象であつて、有意的行爲である。換言すれば、人間に於ける生殖的行爲は必然的な本能作用であるけれども、同時に生殖慾としての意識現象であつて、性的行爲として自由

意志によつて決定される道德上の行爲である。即ち生殖は一面に於て必然的現象であると共に自由的現象である。この必然と自由とは人間の生殖をして人格的價値を生ぜしめる原因であつて、最も尊貴なるものである。男女の性は斯かる意味の生殖的概念によつて成立するものであつて、必然的要素と自由的要素とを含んで居る。即ち先天的要素と後天的要素とを兼ねて居る。中庸の卷頭には、『天命之謂性、率性之謂道、修道之謂敎。』とあるが、男女の性はこの天命の性であつて、天より享けた使命であり、職分である。即ち男女の性は天命であり、天職である。この意味に於て男女の性は必然的なものである、豫定的なものである。けれども、男女がこの天命として享けた性に率ふことを男女の道と謂ふので、男女道德と稱せられるものである。即ち天命としての男女の性に對して、自己の意志を統御して自動的に率由することが、男女の男女たる所以の性的原理なのである。そしてこの男女道德を修めて人格を養ふことを性の敎育と云ふのである。

　男女の性とは上述の如き意味を有するものであつて、生物がその生存上の目的を實現する爲めに、天命として享けたる生　殖上の分業的能力である。これを男女の個性と稱するのである。私はこの意味に於ける定義に基いて、更に便宜のために、この男女の個性を幾つかに分類して見たいのである。先づ人類がその生存上の目的を實現する生　殖的生活なるものは、人生に於ける人間の人格的生活であるから、男女の個性はこれを人格の概念から分類すれば、個人的方面と社會的方面とを併有することになる。そして、個人的方面には肉體的方面と精神的方面とを併有することになる。そして男女の個性は歸するところ、（一）身體的個性、（二）精神的個性、（三）社會的個性の三種となる。この三種の個性を發揮して人格的生活を永遠に持續し、地球上に於ける人類の生　殖的生活を連綿不斷ならしむることが、男女の性の本義になる。然らば此の本義に基いて此等の個性を發揮するに當り、男女間に如何なる相違があるか。私はこれに對しては、拙著に於て詳細に解答を與へて居るから茲では省略して、唯だその相違の根本的原因を爲して居るところの必然性と自由性に就いて究明して見たいのである。即ち人間がその生存上の目的を實現する爲めの生殖的使命に於て、男女の個性に如何なる必然性と自由性とがあるかを探究することを目的としたいのである。これは男女兩性に於ける根本的原理の研究であるから、問題の解決はこの研究から進まなければならない。女子參政權の可否も、女子職業の當否も、この研究の結果によつて明にされるのである。隨つて母性の保護もこの研究の結果から歸納されたもので無ければならない。本文に於ては專ら身體的個性及び精神的個性に屬する個人的方面を研究することを以て目的としたい。この社會的個性は結論に於て一言するに止めて、その詳論は他日にゆづりたい。

三　男女の身體的個性

　身體は人格の一要素であつて、人間の生活の一面を爲して居る。個人生活の第一義は實にこの身體的生活である。さてこの身體と云ふものは精神に對して云ふのであつて、自己の

認識に於て自己の精神を主體とした場合に客觀としての自己を指して居る。自己の意識內容を主觀とするものに對して、外界に於ける凡ての對象を客觀とするもの丶中から、自己と云ふ概念によつて限定された客觀を身體と云ふのである。それて身體と云ふものは意識とは全く異る性質のものであつて外界の物質と同質のものであるが、併し乍ら外界の物質のやうに自己との關係の間接なものとは異り、最も自己に關係の深い殆ど自己と同一の性質を有するものである。特に自己の存在と萬有の存在とを區別するには、この身體と云ふ概念を自己の概念の一要素に加へることによつて始めて認識されるのである。それて身體はこの宇宙間に於て自己の存在を物理的に基礎づける一の物體なのである。この意味に於て身體は吾人の人格の客觀的要素であつて、人格者と云ふ自由の主體が意識的生活を續行するに必要なる物質的條件であつて、必然的客體を爲して居るものである。これを正確な語で表せば自己の肉體的生活機關なるものが人間の身體である。

（一）肉體的生活機關に於ける性の必然及び自由

さてこの人間の肉體的生活機關なるものは、自由の主體たる人格者を必然的に規定する物質的條件であるから、その機關の轉機には最も明白な必然的現象を呈示して居るものである。今この生活機關の轉機に於て、男女の上に如何なる相違があるかを比較究覈することは、性の相違の本質を知る上に重大な關係を有して居る。併し私はさう解したからと云つて男女兩性の本質を身體の物質上に置く者では無い。又は精神上に置く者でも無い。前者は物理的必然を以て男女の性と誤解し、後者は精神的必然を以て男女の性と誤解する者である。私はこれを同時に認める者であつて且必然と自由の調和に於て男女の性はその眞相を知らるゝものと信ずるのである。

以上の如き見地からして、此の身體なるものを觀察する時は、先づ吾々は常識に由つて男女の性を知る者である。その極めて原始的な素朴的な觀察としては、兒童の性的意識期に於てこれを發見するのである。兒童は五六歲に達すれば既に男女の性を意識するのである。それは何を標準として居るかと云ふに、生殖器の差別に據るのである。生殖器に關して見聞した經驗的知識とその概念との作用によつて、歸納され演繹される結果である。然らばこの原始的なる常識的觀察は性の判斷に於て正しいか何うかと云ふに、大に正しいのである。これを解剖學的に觀察しても、發生學的に觀察しても、生理學的に觀察しても、男女は生殖機關を根本的に異にするのて、而も赤裸々に區別されて居るので、物理的に化學的に必然的な分野を有するのである。否むことの出來ぬ。隱すことの能はぬ天分を與へ附けられた者である。先づ吾々はこの世に呱々の聲を發すれば、直ちに數人環視の中でその生殖器を檢査されて、男女の性によつて國家の臺帳に登記され、その性に率つて凡らゆる教育と待遇とを區別される者である。この意味に於て吾々は先づ生殖器の差異によつて男女の性を帶ぶ者であつて、その解剖學的法則又は生理學的法則に由つて性的生活の相違を生ずる者である。殊に男子の精子に對する女子の卵子又はその內分泌の相違及び女子にのみ月經のあ

るが如き現象は、男女の生殖機關に於る著しい特徴である。

この外男女の身體には骨格、皮膚、毛髮、筋肉、血液、消化器、呼吸器、音聲等あらゆる生活機關に於て、幾多の相違を認めることは實に枚擧に遑ない程である。尤も此等の肉體的相違の中には、人類の永い社會的生活によつて馴致されたものもあるので、男女兩本位の機會均等なる社會的生活の結果で無いと云ふことも出來るが、大體の意味に於て自然界の法則に支配される必然性と解して大過が無いので、人間の自由によつて改廢の出來ぬものが多い。それて男女は宜しくその身體の衛生に注意し、その必然性を培養して、各自の個性を保護することが必要になるのである。此の衛生なるものは不衛生と共に精神の自由によつて爲されるのであるから男女は各自の衛生行爲によつて自己の必然的個性を發揮することも出來れば、その不衛生行爲によつて、之れを損傷することも出來る性質がある。こゝが男女道德の必要な所以であつて、男女は自己の人格に於ける必然を實現するために人格上の自由者となつて、これを躬行しなければならぬ使命を帶びて居る所以である。これが父性の保護であり、母性の保護である。

今一二の例を下に擧げて見る事が出來る。先づ男女の容貌に就いて見るに大に異つて居る。耳目口鼻は同一の位置にあつても、その美の性質に於て相違がある。男性美と女性美とはその類を根本から異にして居る。兒童期に於て差別が附かぬ程に酷似して居た兄弟姉妹間に於ても、青春期に達すれば著しくその特徴を發揮して、男性美と女性美とは根本から性質を異にするに至るのである。それて男子が女子の容貌に倣ひ、女子が男子の容貌に倣ふが如きは、醜惡の行爲であり天成を害することの甚だしいものである。次に男女の體力に就いて見るに今日まで甚だしく誤解されて居た。男子は體力が強く女子は弱いものと先決されて、それに服從することを命ぜられて居た。勿論過去の男子は狩獵や戰爭に從事したが爲めに體力が強く、女子は一般に弱い傾向があつた。女子は特に姙娠中に於ては、體力を用ゐるに一定の制限がある。けれども、是れは一般論又は特殊論であつて、個人そのもの丶本質より見れば體力の強い女子は弱い男子よりも勝れて居ることは勿論である。五十人の少年と五十人の少女とが綱を引けば伯仲の間にある事もあり、女軍の方が勝つ場合もある。況して曲馬團に屬する娘達はその體力に於て到底柔弱なる一般青年の比では無い。男女の體力の強弱はこれを先天的な本質的個性と見ることは出來ない。苟も人類に於て一人の女子と雖も或る一人の男子よりも體力に於て優秀なる事實の立證される以上は、男子が女子よりも體力の強い事實を他に立證しても、それは個性上の原則にはならない。縱令それを統計的に立證しても、個性は凡らゆる個人に通ずる普遍的原則てなければならぬから、統計上の一般法では不合理である。況して過去の因襲によつて女子が體力の修養を怠つて來た事實を閑却して居ては、その統計的一般法にも大疑點が存するのである。男女の體力の相違は男性間の個人的體力の相違と同一の性質を有するものである。

現在に於ける日本の女子の體力を比較して見るに、田舍で

農業に從事して居る女子と都會で座敷の上に座つて居る女子との中では、後者は到底前者の體力には及ぶところで無い。更に日本の女子を體力の養成に旺なる西洋の女子に比較して見れば、劣等の地位に陷るのである。斯樣に女性の間にも敎養の如何によつて體力に差等が生ずる。日本の農家に住む女子は白米四斗俵を擔いで倉から出て來たり、西洋の女子が大きな籠を下げて遠隔の市場まで買物に出掛けたりすることの出來るのは、體力の習練と勤勉との結果である。現在の日本の都會に住む無職業の女子は、頭に重い色々な裝飾品を載せて運動不自由の標號と爲し、更に大小五本の帶で胸や腹を窘束して呼吸を節約し、その上に座蒲團に端座して足を短くし灰色な顔をして講談落語を讀んで日を送り、一度戸外に出れば内股に歩く妖怪の如く、五六丁も行けば既に疲勞して仆れさうになり、總てを通じて娼婦型であるのが彼等の常習であるが、これでは體力は衰へるばかりで無く、多くは肺病や花柳病によつて夭死すべき運命者である。彼等はこれを以て女子の個性であると解し、彼等の良人も亦たこれを以て女子の個性であると信じ、互に因襲の奴隷となつて生活して居るのであるが、これは個性の極端なる墮落である。個性の必然性を害して自由性を濫用し、放縱に陷つて反つて自由を失ひ、遂にこれを必然と誤り解するに至つたのである。日本の女子が十七八歳から三十五六歳までに最も死亡率の多いのは、これが最大の原因である。日本の女子に勞働を嫌ふ者の多いのは、その結果である。勞働を爲し得ない劣弱の體力を備へて居るのであるから、勞働の苦痛なることは眼前に必定な事柄である。女子が筋肉上の勞働に適せぬことを、女性の必然性と誤解するに至るも自然の勢である。けれども、是れは自由を極端に押し進めた放縱的因襲の結果として解すべきものであつて、女子の本質的必然では無いことに留意しなければならない。

次に見逃してならぬ事は男子の腕力である。男子の體力に由來する腕力に伴ふ暴力である。男女の體力に由來する腕力に於ては伯仲の間にあつても、それに伴ふ暴力に於ては千里の差があり、女子は到底男子の敵では無い。過去の男子や現在の男子は實に暴力の權化である。血鬪は男子の間に行はれて、女子の間に行はれない。そして男女の間に腕力上の挌鬪があれば、女子は男子によつて直ちに征服される。男子の暴力の前には女子は唯だ服從と阿諛あるのみか、否らざれば身命を奪はれるのみである。此の恐るべき男子の暴力は人類の凡ての男性を通じて共通の現象であることから推して、男子の個性に於る必然性であると目せられるに至るのである。人類の歴史が男子の暴力によつて行はれた戰爭の歴史であることに想倒したならば、暴力が男子の必然的個性であると目せられても辯解の餘地が無いのである。けれども、此の暴力なるものは男子の體力に原因する物理的必然と解するは早計であつて、實にこの體力を惡用する精神的産物と見做すべきものである。一般の生物又は歴史上の人類に於ては、この精神的暴力は外界よりの危害を避ける爲めの自己防衛の手段であつたが、現代の批判的文明に於てはそれは有害なものとなり、平和的生活の上から蛇蝎視されるものと爲つた。卦建時

代の暴力は資本時代の金力となり、更に將來には勞働となり進んで知識とならんとして居る。この意味に於て男子の暴力は男子の自由によつて爲さるゝ精神的罪惡であつて、人道に反する蠻習たるに止り、決して本質的な必然性では無いと云ふことを立證されるに至つたのである。

(二)女子の姙娠及び產兒

前述の如く、男女の身體には幾多の必然的個性を有するが、就中生殖機關の相違は最も著しい特徵であつた。さて此の生殖機關の相違とその必然的機能とからして茲に招來される結果は、女子の身體に現はれる姙娠と產兒の現象である。これは男子になくて女子にのみある特有の現象であつて、最大なる相違點である。男女の生殖機關に於ては各自に異つて居ても、その生殖的能力に於ては相對的のものであつたが、この姙娠と產兒に至つては相對性を失つて女子の獨占的事業となり、絕對的の個性となつて居る。哺乳動物に屬する人類に於ては女子の體內に於て受胎して姙娠の現象を生じ、十箇月の發育を經て嬰兒となつて體外に產み落されるのである。勿論、姙娠なるものは精子の自動的運動によつて卵子に肉薄したのを卵子が自らこれを體中に取り入れて合一したことであるから、發生學上より論理的に言へば男子が姙娠したとも云へるし、女子が姙娠したとも云へるし、男女が姙娠したとも云へる譯である。姙娠なるものを生體に於ける生殖的事業と見る時は左樣に解釋することが正しいのである。けれども、普通に姙娠を女子の一方に認めるのは胎兒の位置が女子の體內にあるが爲めである。卽ち胎兒の住家が母體にあるが爲めてある。男子が姙娠したとは云はずに、女子が姙娠したと云ふのは、この胎兒の住家が女子の體內に新設されたことを指すに外ならない。

さて女子がこの胎兒の住家を自己の體內に新設することは全く女子の天性に屬するものであつて、女子自らこれを拒むことが出來ない。人爲によつて姙娠を避けることが出來るけれども、姙娠の可能性を避けることが出來ない。胎兒を傷害することが出來るけれども、胎兒の發育を禁ずることは出來ない。假令不義の胤を宿した場合でも、最初はこれを祕で隱して置くとしても、臨月に至れば生み落さゞるを得ない。姙娠と產兒とは斯くして女子の身體に嚴存する天性となり、根本的個性となつて居るので、人間の自由を許さぬものである。この意味に於て、女子の姙娠と產兒とは自然法に支配される必然的現象であつて、生體が個性的標準以上の發達を繼續して、地球上の生活を連綿不斷ならしむる本能的分業である。けれども、此の姙娠と產兒とは吾々の人格的生活に於て、性慾的意識の統御によつて不義の姙娠より正義の姙娠を選び、不合理の產兒から合理の產兒を選ぶことが出來る。一夫多妻、一妻多夫、亂婚に於ける禽獸の行爲を捨てゝ、一夫一婦の人格的戀愛を採ることが出來る。この意味に於て、女子の姙娠と產兒とは人間の人格的生存をして、その目的を實現せしむるものである。女子の姙娠と產兒とを單に身體に屬する必然性として認めるばかりで無く、この必然性をしてその本來の目的を發揮させ、それを理想的のものとして自由性を擴張

することに努力しなければならない。一夫一婦の人格的自由性を失つて一夫多妻となり、一妻多夫となり、亂婚となつてその間に生じた女子の姙娠と產兒とは、自然界の物理的因果によつて支配される物質的奴隷としての生殖的現象であつて、性的生活の墮落てある。これは獨り女子のみては無く、この女子の姙娠と產兒とに關係した男子も同一の罪を負ふ者てある。

次に女子の姙娠は胎兒を母の體內に於て發育させる目的からてあるから、其れに伴ふ一切の便宜を圖り、衛生に注意しなければならない。產兒に伴ふ母體の生活に於ても同樣てある。此等の性的生活は女子の個性の特質てあるから、これを危害すること無く、大に保護しなければならぬ性質のものである。胎兒の發育とその運命は第一次的には父母の生殖細胞の遺傳素によつて規定されるが、第二次的には母の體內生活によつて規定されるものてあるから、姙娠中に於ける母體の保護は胎兒の保護に當るのてある。胎兒は母體を保護されることに由つて始めて自己を保護されて、健全なる嬰兒となつて呱々の聲を擧げるのてある。母體の保護はこの意味に於て最も急務を要するものてある。けれども、母性の保護は先づ女子が自ら自己の母性を人格の自由を以て保護することに始まるので、次に男子がこれを保護し、次に社會がこれを保護するの順序に進むのてある。自ら自己の母性を保護し得ない人格の不自由者は如何に男子の庇護を要求し、社會の擁護を遠望しても、永久に自己を保護する機會を見出し得ない者てある。是れは身體に屬する女子の個性は自然界に於ける必然性てあるけれども、これを保護救濟してその天職を全うさせる能力は自己の精神に於ける自由性てあるから、自己の精神に自由のない者は外界より如何樣に身體の自由を保證されても、眞の自由に到達することの不可能な事に原因するのてある。

次に重大な事柄は姙娠と勞働との關係てある。女子は姙娠中に勞働を爲し得るかと云ふ問題てある。倫理學、生理學、產科學の總合的結論に依れば、大に爲し得ると答へるのてある。勞働と云ふものは倫理から見れば、人格の可能性を發揮する爲めの勤勞てある。これを精神上に働かす場合には精神勞働となり、これを筋肉上に働かす時には筋肉勞働となる。人間は四六時中を通じて此の二樣の勞働を繼續して、その間に休息と睡眠とを以て疲勞を癒して生活して居る者てある。これが人生の生活てあつて、人格の可能性はこの日常不斷の間に實現されて行くのてある。それて人間は一日と雖も人生の勞役から免れることは出來ない。人生は實に勞役そのものてある。勤勉と云ふ德はこの勞役を克く盡して人格の可能性を發揮した行爲に對する善的評價てあり、怠惰と云ふ不德はこの勞役を忌避して人格の可能性を發揮せざる行爲に對する惡的評價てある。この倫理學上の法則は生理學や產科學の法則に對して如何なる逕庭があるかを尋ねるに、符節を合した如くに調和して居る。女子の姙娠中は胎兒の發育を圖ると與に自己の身體を維持する爲めに、母體は先づ大に健康て無ければならない。心身共に活潑て樂天的の生活を要するのてある。それには精神勞働と筋肉勞働とが伴はなければならない。

適度の休息と睡眠とを與へながら、新鮮なる食物を攝取し、清明なる空氣の中で勤勞しなければならない。その結果として、母の身體が壯健になつて胎兒の營養が充分に行はれ、母の精神が健全になつて胎兒の精神的影響が良好に赴くのである。これに反して、一室に閉ぢ籠つて何等の勞働もせずに、寢たり起きたりして一日を過ごし、胃腸を害し、呼吸器を損ね、藥餌と低級雜誌とを枕頭に備へて無二の侶伴と爲し、偶ま散歩と稱して庭前の樹間を二三歩逍遙するを以て姙婦の生活と心得るならば、誤解も甚だしい者である。女子は姙娠中と雖も平日と異るところが無く、適度の勞働に對して勤勉に立ち働くことが肝要である。これは姙娠と云ふ女子の必然性をして、最も健全ならしめんが爲めに、人力の自由を以て擁護することである。唯だ産褥の前後に於ては病人と同視すべきものであるから、身體の原狀に恢復するまでは勞働を中止して、專ら安靜を以て本領としなければならない。その細則は衞生學の法則に從ふべきである。

（三）女子の哺乳

哺乳動物に屬する人類は兒に乳を哺ませて養ふのである。兒は母の體中より分泌する乳汁を食物として、攝取することによつて發育するのである。この意味に於て哺乳は女子の個性に於ける必然性であつて、男子に異る點である。この哺乳は兒に取つては食事であるから、日夜を通じて幾回となく反復され、八箇月の間だけ必要なのであつて、甚だ煩瑣なものである。けれども、此の勤勞は母の母たる所以の職分であつて、人間に於ける母性はこの哺乳に於て最も完全に顯現されたものである。女子がその兒を兩手に抱へて乳を哺ませる場合には、自己は母であると云ふ意識の最高調に達し、この勤勞は本能となつて活動して居るものである。斯樣に哺乳は實に女子の天職であり、使命であるから、これを拒むことは出來ない。兒の乳を求める聲に應じて、程よくこれを與へることが母の人道である。尤も兒がその母の乳を求める聲は自己の生命を求める必然の要求であるから、母が與へると與へぬとを問はず、自己の權利の主張の萠芽である。兒には目下のところ何等の義務も無く、唯だ權利の主張を意味する空腹の訴が本能的にあるのみである。母はこの要求を聞いて何人よりも優先してこれに應ずる權利を有し、且つ最大の義務を負ふ者である。斯樣な意味に於て、哺乳は女子にのみ特有なる必然的個性であつて、且つこの個性を發揮し、これを實現する爲めに、本務的行爲を果すべき人格の自由者である。女子は哺乳を人道として自覺し、自己の自由意志によつてこれを行ふに至つて、始めて哺乳の必然的個性は人生に於て完全なる本義を全うすることが出來るのである。單に本能的行動として必然によつて支配されるのみで無く、これを人格的に自覺して人道として觀ずるに至つて、眞に母性の眞體に達することが出來るのである。

然るにこゝに若干の例外がある。母の身體が薄弱な爲めに食物を消化することが不充分な事から、乳汁の不足な場合には、牛乳や或はその他の液體を以て補ふことが出來る。又た母體に惡性の病を有する時は全く哺乳を絕つて、牛乳其他の代用物を以て補ふか、若くは乳母によつて哺乳する必要を生ずるのである。これ

は止むを得ざる場合の手段であつて、女子の個性の個人的不完全に由來するものである。女子の個性の必然性に或る先天的な缺陷を有するか、又は後天的な過失に原因するのであつて、この場合には人爲上の自由を以てこの不完全なる必然性を補足することが必要になる。乳母を雇ふも、里子に遣るも、牛乳によつて育てるも皆な人道に基くものであつて、最善の手段として選ばれた方法である。

然るに世間には健全なる母性を有し、何等不足のない完全至極の女性を有して居ながら、哺乳の行爲を嫌ひ、乳母を雇ひ、里子に遣り、牛乳を以て代用する等の輩があるが、實に人道の敵であり、正義の賊である。女子の必然性に基く天職を怠り、天の使命を果さず、啻に自己の安逸を貪り、不合理の奴隷となつて生活して居る者であつて、惡虐無道の行爲である。人生の目的に反し、人格の實現を知らざる人非人の行爲なるのみならず、禽獸すら尚ほこれを恥づる行爲である。これは女子の性に於ける自由性を濫用して、放縦に走つた好例である。又これを習俗として社會的に惡用するに至らしめた罪は男子に厳存して居た。男子は自己の放縦なる欲望によつて女子の必然性を無視して、この哺乳の個性を危害した罪は免れぬ歴史的事實である。新人としての男子はこの非を攻めると共に、女子はこの舊慣の奴隷から自己を救ひ出さなければならない秋である。

次に哺乳と勞働との關係に就いて考察して見るに、母の勞働は先づ時間に於てこれを無制限に繼續さすることは出來ない。兒の爲めに哺乳の時間を割かなければならない。隨つて母の勞働は空間に於て、兒と無制限な距離を保つて從事することが不可能である。母はその兒に對してこの時空の制限内に於て、一定の要件の下にその勞働を許容されて居る。これが女子の哺乳に厳存する必然的個性であつて、この個性を度外視すれば嬰兒の發育が不充分なるを免れない。少くとも入齒月の間だけはこの必然性に準由しなければならぬ。工場工業に於ける女工の救濟は、この原理に基いて手段を講ずべきである。これが男子と異る點である。男子の勞働に於ては斯かる必然的個性を認めることが出來ないものである(つゞく)

猿の話

理學博士　谷津直秀

猿は動物中尤も人間に近い、悧巧な動物としてあり、科學者は人間の先祖である、我々は猿から進化したものであると云つて居ります。我々祖先が猿の一種で、我々は夫れが何億年を經て斯く進化したものか、夫れとも初めから猿は猿、人は人と、別なものであつたか、之れが斷定は今日なか〳〵困難であります。が然し、猿の心意が動物中尤も優れて發達してゐるものであること丈けは慥に事實であります。

然らば猿は人に比すれば如何程位の智慧をもつて居るかと云ふに、先づ人間の二歳か三歳位の心意に相當するやうであります。まづ猿はよく人眞似をします。何でも敎へれば眞似るが、しかし夫れは眞似てする丈けて、如何に賢い猿でも夫れ以上自から發明するといふことは決してないのです。つまり敎へられし事を其の通りにやるだけで獨創するといふことはありません。二つ位の子供の心の働きは獨創らしいものがないのですが、猿は夫れより明かにないのです。

又猿には物を利用して仕事をすると云ふことはないのです。例へば柿の實を取る場合に、手が屆かない、幹に上つて行つて取ることはするが、其傍に踏臺に恰好な空箱があつても、それを運んで來て踏み臺とする程の智慧はないのです。ですから昔獵人が母猿を打ち取つて、歸つて梁に吊してゐたら夜中數匹の子猿が母を慕ふて來て、その吊られたのを見出し、之れに觸れんとしたが、手が屆かないので、一疋は腰を曲げて踏臺となり、他は代る〳〵傷の手をかざしては母の死體を温めた（獵人は夫れを見て發心して爾後獵をやめた）と云ふはなしは、作り話であらうと思ひます。猿にはさうした利用の智慧は昔もなかつた筈です。彼の南米探險者などの物語りにある猿の谷渡り、即ちモンキー、チエーンなども全く虛構の話です。

又猿は氣が變りやすいのです。今何か熱心にやつてゐるかと見てをれば次の瞬間から全く外のことをやる。熱心に柿の實を取らんとして飛び上り居るかと思へばフイと夫れを中止して遊び事を初めると云つた樣に連續して事をやらない。之れも二つ位の子供の心の狀態によく似てゐます。(談)

過度勞働の問題

明治大學教授 藤森達三

一 勞働運動と過度勞働問題

現在日本の産業界が將來の發展を希望して止まない事は、解り切つて居る。從つて産業的活動が月に日に益々盛になり又頻繁になつて來た事も架説を要さない。併し乍ら、其産業的活動は順當なる發達狀態に在るかと言ふことは頗る疑問である。現在、無自覺と横暴と憤恚と不安と一般の疑惧と爭鬪とは入亂れて居る。從つて産業的活動量は、其順當なるべき點より見れば甚だ少ない。されば國家百年の見地から見るも、産業の順當なる發達は大に阻害されて居る。而も産業界が、あらゆる方面と共に、空前の動亂時代に在ることは、何人も知らざるものはない。

併し乍ら、現在の産業的動亂は一面に改造の洗禮を受けつゝある。あらゆる事物を革新せずんば止まざる世界改造運動は、啻に日本と云はず、全世界の産業組織、殊に勞働組織の進運的改造をも企圖し、今や其目標に向つて急進しつゝある。佛國に於ける聯合會議の結果として米國に世界勞働會議は開かれた。亦幾多の勞働組合組織せられて直接間接の運動も盛になつて居る。而て現在何人の見解を以てするも、此改造運動に依つて、産業は將來、其進化過程に於ける順當狀態に趁むくことが出來るものと、觀るのが正當である。

しかし、日本現在の勞働改造は、問題としても運動としても、啻に經濟的若くは産業的理由に依つて論議せられ或は計畫せられて居る譯には非ず、民主運動、文化運動、社會化運動、憲政運動さては、婦人問題乃至運動等と互に經となり緯となり抱合連絡せるものとして審議せられ或は行動して居ると見らるゝ。從つて現在の勞働運動若くは問題を完全に理解せんには、之を他の運動若くは問題より全然離隔して單に經濟的見地よりのみ觀察する事を得ざる點多々存する。去り乍ら研究の必要上此運動の對境を産業に限界して、現在の勞働運動が如何なる意味に於て、又如何なる目的の爲めに起されて居るかを觀察して見ると頗る明瞭に言ひ得る處がある。今是を一言に云ふと、資本家の横暴に反對するの意味に於て、又勞働者の價値を向上せしめんとする目的の爲めに、勞働運動は興されて居ると云ふことが出來る。

由來今日の産業界に於ける混亂は資本家の無自覺と横暴が主として其因を爲して居る。それが爲めに産業的活動も順當と見ること能はず、そこに憤恚と不安とがあり疑惧と爭鬪と

が起されて居る。即ち勞働運動の起つた所以である、然り是迄の資本が勞働を、資本家及企業家が勞働者を奴隷視壓迫して居る狀態には見るに忍びず聞くに耐へぬものがある。己れの利をのみ見るに急にして勞働者の利益を顧ざる狀態に唾棄すべきものがある。されば此資本家の横暴に對抗して勞働者が一致團結し、サボタージやストライキを續々斷行して、其目的の達成に努めるのは當然である。而て是等後者の運動が現在の産業そのものを阻害することは無論のことであるが、資本家企業家の大反省を促し勞働の向上を計りさては將來産業の順當的發達を計るの點より觀れば、其運動はヨシ一時的に産業上の損害乃至社會的損失を釀すとするも、正に當然であり正當であると云はねばならぬ。云ふ迄も無く、現在の勞働運動は、之を全體として觀れば、啻に是等の對資本家運動に止まらず、勞働組合制度の確立及社會的、經濟的、政治的立法の促進等にも活動して居るのであるが、今單に勞働者の合同的取引力最後の然も最も有力なる手段たるストライキ及サボタージが如何なる事柄を資本家に對して要求して居るかと云ふ點のみより見ると、賃銀の値上及過度勞働の撤廢とである。

處で今是を主として産業的活動量の點より觀ると、前者は間接關係に在り後者は直接關係に在ると云ふことが出來る。現在の産業的活動量は、既に述べたる如く、資本家の横暴に反抗する勞働者の合同取引力の最後手段の爲めに阻害されて居ることは無論であるが、此行動そのものは産業將來の發達の爲めに餘義無くむしろ必要なる事柄とし、尚此外に産業的活動量を多大に阻害し然も寛容すべからざるものがある。即ち資本家の横暴である。換言すれば是等の運動が其撤廢を資本家に要求して居る過度勞働そのものである。蓋し産業的活動の量は過度勞働の量と反對に變動するからである。別言すれば、現在の産業活動量は、勞働者の能率引いては生産能率を低下するところのものたる過度勞働の爲めに、其順當なるべき量を示して居らぬからであつて、又他の産業國と比較しての日本の場合は、殊にも過度勞働甚だしく多きが故に産業的活動量、他の産業國に比して甚だ少なきを感ずるの狀態に在るからである。此意味に於て過度勞働の撤廢は賃銀の値上が他の直接理由よりして最も肝要なると、同樣に最も緊要事と云はねばなるまい。從つて其理論も最も明確に意識されなくてはならぬ。

勿論現在の日本の勞働者の要求としての賃銀の値上と過度勞働の撤廢とは、實際上の或見方に依ると、只に要求として在るばかりでなく研究問題としても、全然離隔し得ざる關係に在るものと見ることが出來よう。併し此兩者が結合して單一要求を成す場合に於ても別個の解結を爲すことが出來、亦研究の上から見ても其理論を全然離隔して見ることが出來る。即ち過度勞働とは何ぞ、過度勞働の結果及其影響如何、過度勞働の救濟即ち撤廢法如何の究明は吾人の本篇に目的とするところである。

二　過度勞働と其結果

過度の勞働は個人の能力を絕へず殺減する産業的活動であ

る。別言すれば日々エネルギーの供給さるゝ程度を越へて日々エネルギーを消費することである。今日、人間を衰弱せしめ短命ならしむるは勞働でなくて心配であると云ふ説は依然行はれて居る。しかし嚴正に言ふと此説は未だ眞實を語って居らぬ。心配と云ふことゝは全く無關係の過度勞働と云ふことが人間を墮落衰弱困乏短命ならしむるものなるからである。奴隷は早朝より夜間に至るまで適當なる回復時間を與へられずして激烈なる勞働に從事し、馬が死ぬ迄馬自身何等有意義の點を有たずして勞働を強いらるゝと同樣に、徒に死に向つて動いて行くともいふことが出來よう。

由來勞働の結果は疲勞であつて、其程度は、一日の勞働時間と其間に於ける勞働の激度とを乘じたものと均しい。併し過度勞働より來る過度疲勞は、軈て疾病を誘致し、さては疾病に因る死亡を誘致するのである。然るに今日勞働時間の長き事と激烈勞働とは滔々として行はれ、盛に勞働者の疲勞を生んで居る。産業界の一大惡弊と云はねばならぬ。然り過度勞働は近世の産業組織を阻害し勞働組織の完全を無視する事おびたゞしい。そは生活力を弱め最高生產能力を低下せしめて居る。されば吾人が最高生產能率を確保せんとならば須く此の二者を排除すべきである。今研究上之れを二つに別つと。

（一）長き勞働時間

は過度勞働の最も明白なる場合の一である。由來勞働時間は産業の種類に依つて種々に異なるものである。之を一般的に曰はんか、最も熟練を要する種類の産業に於ては、比較的短い時間勞働して居る者もある。卽ち八時間或は少くとも九時間或は十時間に改めて居る樣である。最もこれは組合が強剛の態度を採つた結果であつて、其數未だ多い譯ではない。然し比較的荒仕事にして比較的熟練を要さゞる種類の産業に於ては、組合の結束弱く、又勞働時間も一般に前の場合よりも長いのである。殊に鑛業の如きに於て著しい。

八時間勞働は製鐵工場に於て歡迎することの出來ぬものである。………詳細に檢べて見ると、此工場に於ける一萬七千の勞働者中、眞に八時間勞働に適する者は僅かに百二十人位にしか過ぎないと云ふようなことは、依然として多くの方面に唱へられて居る。現在八時間勞働を採用した極少の方面は別として、多くは十四時乃至十時間、最も少くとも九時間の勞働が行はれて居る。既にオーストラリャ及亞米利加の如きは、勞働時間を、八時間に減じて居るが、それに比較して、吾國現在の大多數の産業が十時間乃至十二時間基礎を以て行はれて居るのは甚だ遺憾に堪へない。

勞働時間の長きと云ふことに付て最も權威あるシドニー、ウエッブ、ジョン、レー等の研究に依ると、十二時間勞働は必ず過度勞働と能率削減とを伴ふものであると云ふことである併し十一時間勞働及十時間勞働に付ても同樣に述べることが出來よう。而て今日幾多の權威が一致して居るのは、

『勞働に八時間
休養に八時間
睡眠に八時間

それで一日だ

と云ふのである。故に、若し雇主が、一日に勞働者から最大勞力の供給を得んとならば、卽ち二十四時間の勞働を强ひねばならず、又一ケ月間だけ最大勞力の供給を獲んとならば、勞働者をして一日十二時間勞働せしむべきであり、又若し一ケ年間最大勞力の供給を得んとならば、一日十一時間働らかさねばならない。併し使用人が健康にして能率多く且つ長命ならんことを欲せば、其雇主が使用人に望む勞働時間は八時間を越ゆべきではない。

理想的勞働時間は八時間である。而て是に五割增の時間、卽ち十二時間は過度勞働の苛酷狀態である。それにも拘はらず、此明白なる事實に反して、大方の產業は長時間基礎の上に樹立せられ維持せられて居る。或產業の如きに於ては一年を通じて繼續的に長時間の勞働を要求して居る。又一方に或產業の如きに於ては多忙期節を有し其間は極めて長時間に勞働し、暇なる時には何等仕事をせざるものもある。乍併是等何れの場合と雖も同樣なる結果を生ずるのであつて、繼續的なると停止的なるとに區別なく何れも過度勞働を必要とするのである。尚長時間勞働の問題を、疲勞の點より細分すれば、幼年者の場合、夜間勞働の場合、殊にも女子の夜間勞働の場合をも含むは當然なるも、今は一般的の觀察に止めて置く、而て勞働時間の長き事は、茲に述べたる如く、過度勞働の主なる原因であるが、其全部の原因でなく、勞働の甚だ激烈なることは、過度勞働の今一つの原因を爲して居るのである。卽ち

（二）勞働に加速

の問題である。今是に付いては既に八時間制度を採つた亞米利加に於ける例に依つて述べることゝする。もと亞米利加の十年前に於ける勞働は十時間基礎に依つて居たのであるが、其後漸次に八時間基礎に改めたのである。然るに其間勞働時間短縮と共に如何なる現象が現はれたかと云ふと、卽ち此勞働加速である。勞働時間が短縮すればする程勞働速力が增したのである。

今より數年前、紐育に於けるシャツ製造工場の女工がストライキを行つたとき、或女工は「十年前には一本の針が一分間に二千二百回中の率を以て動くのを注意したのであるが、今日では二本乃至二十本の針で然も或針の如きは一分間に四千四百回中するミシンを看視させられて居ると、不平を鳴らして居つた。無論此仕事には、針が折れるとか糸が絡み付かるとか樣々の注意を要する事がある。然も賃銀は出來上つた一枚幾何で計算するのであるから、一分間幾何と云ふ程の剩んだ勘定になる。斯う云ふ有樣であるから時間斗り短縮されたが、仕事の緊張度合は益々增加する。又其結果起る疲勞は更に强い事になつたのである。卽ち針は以前よりも多回に上下する、そればかりでなく其數も增へて居る。從つてミシンは以前よりも急速に回轉するが故に、注意勤勉の度合も强く要することになつたのであつて、結局勞働時間全數は比較的少ないのであるが、仕事に用ゆる活力全體は、力の集中と速力の增加とを要求さるゝが故に、甚だ大になつたと云はねばな

らない。

而て疲勞は毎時間に於ける勞働の激度に依つて乘ぜられた勞働時間數の所產てある。從つて實際の時間數が幾分短縮しても、一日の勞働時間は、依然甚だ長いことになるのてある。蓋し短縮された時間數は、工場仕事の强度に於ける激增と比較して遙かに少ないからてある。

畢竟かくの如くして今や米國に於ける普通の職工が、其勞働速力を早むる事は勞働生活に於て實際に有力な要素となつて來たのてある。卽ち工業は進步したると共に最極端の點に迄其速力を加へて來たのてある。千九百〇九年十二月、米國イリノイズ州大審院が或勞働爭議に下したる判決文中の一節は之を克く證して居る。

『勞働時間の漸次的短縮は製造業者が改良せる機械を使用する事に依りて補充されたる事を記憶すべし。而て織物工場に於ては筋力を必要とし然も微細に亘る仕事存するものなり。然れども其仕事は絕へず細心の注意を要し殊に兩眼は熱心を込めて凝視すべきが故に、身體を甚だ疲勞せしめ且つ虛弱ならしむるものなり。卽ち機械が其全力を以て回轉されつゝある間、神經系統全體は細目の仕事に全力を傾注して使用せらるゝなり。此故に夜間に於いて勞働者は啻に倦怠と疲勞とを感ずるのみならず殆ど疲れ果つるものなり、云々』

而て斯の如き趨勢は、日本に於ても將來時間短縮行はれ資本の改良行はるゝと同時に、必ずや或程度に興り來るべきものなること豫想するに難からず、そこに再び問題現れ適應を要するは瞭らかてある。しかし玆には是以上深く敘說せぬことゝする。

過度勞働の結果

併し、長時間勞働と云ひ又强度の勞働と云ひ何れも過度勞働てあつて、畢竟產業的社會的並に個人的安寧幸福を甚だ害ねるものてある。蓋し人間の最も恐るべき病の一たる疲勞を生むからてある。疲勞は之を長く繼續するときは『疲れ果てる』と云ふ結果を起すものてある。又玆に於てか疲勞は、一社會の生產能率を弱むるの結果を作る。故に之を大なる社會的障碍と云はねばならぬ。今日資本家の猛省を要するは實に此問題てある。

然るに日本に於て疲勞の問題に注意する學者甚だ少く、從つて疲勞に關する知識一般に薄く、研究結果を實際の產業に應用する資本家事業家殆ど無い、實に寒心すべき事てある。しかし最近是に關して一道の光明を得たるは、我日本に於て、疲勞と作業なる論文に依つて博士となつた篤學の士ある事てある。吾人は一日も早く其論文を發表されんことを希望して止まぬものてある。

三　疲勞

今疲勞に關して一般に認むる近代の學說を平易に述べんか疲勞は中毒の結果てある。人間が疲勞するのは、主として其筋肉と神經系統とが使ひ弱さらるゝ爲てなく、活動を困難若くは不可能ならしめる化學的化合物が組織に充滿されるからてある。一分間四百四十回回轉するミシンを注意する女工は

其身體組織中に、自己の活動に依つて作られたる有毒化合物現はるゝが故に倦怠し疲勞するのである。而て此有毒物の作らるゝ有樣に付ては、之をドクトル、ハウエル氏の叙述を借りて言ふと、『筋肉中に、其收斂する間に表はるゝ最も顯しき變化は、炭素二酸化物の産出である。筋肉活動を盛にしたる結果如何を實驗するに、其動物(人間)の吐出する空氣(息)中には多量の炭素二酸化物のある事が解る。卽ち筋肉中に産せらるゝ炭素二酸化物は、先づ血管の中に赴き、又それに依つて肺臟に運ばれ、然る後吐出する空氣(息)中に發散されるのである。……かくて此炭素二酸化物は一部は筋肉より外界の空中に發散するのであるが、一部は組織の液狀を爲す部分に分解して滯留するのである。卽ち炭酸鹽なる有毒化合物となつて滯留するのである』と。

而て疲れに依つて作らるゝ毒は、休息中に身體中より除去さるゝのである、詳言すれば此目的の爲めに作らるゝ鑛毒素に依つて中和されるのである。從つて順當なる狀態に於て、疲れに對する休息時間は、疲れに基く毒を除去卽ち中和する長さで充分である。故に若し、此の如き適當なる時間を用ゆる事を得るとせば、每日の疲勞、卽ち健康なる種の『疲れた感じ』と云ふものは、夜間に於て消失するのであつて、翌日は前日と、縱令幾分とも勝ることなき場合と雖も、殆ど同量の體力又は元氣がある譯である。是れ順當なる生活である。乍併若し、勞働時間甚敷延長せられ日曜休日も無く、又疲勞毒を排除『卽ち中和』する何等の機會も與へられざらば、卽ち衰弱を生じ、貧血、退屈、無頓著を生じ、後には神經病を起し、さては一般神經復び健全に還へらざるの狀態に陷つて仕舞ふのである。

今此不順當なる場合を今少しく詳說せんか。まづ、一日八時間働らく或種の規則的勞働が、休息と休養の十六時間を通じて排除することを得る量の疲勞毒を作ると假想せよ、そこで若し其勞働者が九時間の勞働を要せられ、十五時間を休養に殘すとせんか、其の結果は三つ生ずるのである。

第一　に疲勞が或點に達した以後の努力は、其點に至る迄の疲勞よりも更に大なる割合を以て、疲勞を感ずることである。之れ順當なる狀態の下に於て爲す十五分間の努力が、過度疲勞點に達したる後の十五分間の努力よりも、疲勞毒を作ること甚だ少なきを意味する。從つて疲勞筋肉は、一定量の努力に對して順當筋肉よりも更に多くの疲勞毒を作ることの亮なるは贅說を要さない。

第二に、每日、身體中にある疲勞毒が其量を極少しづゝ增して行くことである。蓋し休息時間が、勞働時間中に作られた疲勞毒を全部排除せぬからである。

第三には、疲勞が疲勞を産むことである。而て之は元金が利子を生むのと同じ行方である。蓋し身體の疲勞は只に日々に增加するばかりでなくして、炭素二酸化物そのものゝ關係に於ても增加して行くからである。

四　其影響

然而以上の所說の實際的結果は、勞働者の過度疲勞點に達

した後の活動に見ることが出來る。例へば一日の終に近き頃に爲された仕事は、一日の初めに成された仕事ほど滿足には行かない。トーマス、オリバーの『危險勞働』中には次の如く述べてある。『勞働時間が通常十時間とか十一時間であると云ふ樣な鐵工場とか其他の樣々なる工場に於ては一日の終に成されたる仕事は、午後に成されたる仕事程に好成績でないことが認められて居る。又八時間制度を實驗したところに於て、勞働者は以前九時間で爲した仕事と同量の仕事を八時間で行り上げたと支配人は云つて居る』云々。

疾病及死に及ぼす影響、亦勞働時間短縮の實驗結果の好成績なることはアービング、フイシアー教授も其著『國民的生活力』に述べて居る。今それに依ると、『勞働者の疲勞は、大方は彼等の勞働時間の長きことが原因となつて居つて、それが爲めに、彼等を惡い社會に這入らしめるのである。即ち疲勞は勞働者の神經を不順當な狀態に入らしめる。そこで彼等は其疲勞を酒とか煙草とか刺戟の多い娛樂、樣々の無節制に依つて取除かんと努める、しかし是に依つて彼等の得る一時的な救濟は、疲勞の敏感性を强むるの費用を以てあがなはれたものであつて、早晩彼の生活エネルギーを全く銷沈せしめ又結核病其他の致命的疾病を招致せしむるのであると云ふて居る。

疲勞は盡力の結果である。若し順當なる勞働時間が勵行さるれば、毎日作らるゝ疲勞毒は、翌日の勞働に就く以前に排除せられて仕舞ふのである。併し若し休養及回復の時間が餘り短かきに過ぎると、疲勞毒蓄積せらるゝに至り、身體組織に滲入し、神經中樞を鈍弱ならしめ、茲に疾病の素因を作り、さては神經病そのものに罹らしめるのである。

畢竟するに、疲勞と疾病とは密接の關係がある。即ち疲勞は器管を虛弱ならしめ、病菌に活動機會を與へるのであつて論理上の結果として過度勞働と疾病の間にも連絡あることは容易に認められるのである。

婦人に及ぼす影響。過度勞働が女子をして其母的職分の遂行を如何に不能ならしむるかに付ては、確定な說明を爲すことが出來ない。併し乍ら、既婚女子に對する工場仕事と嬰兒の死亡數の間に密接關係存在することは疑ひの餘地がない。勿論嬰兒死亡數の多きは、半ば不自然な食物に基因するのではあるが、過度勞働より生ずる身體上の無能にも亦基因するのである。蓋し疲勞は、生兒に影響するの理由に依り、男子よりも女子に對して更に危險とすべきである。女子が懷胎中可なりの筋肉勞働を繼續するとか、或は分娩後直ちに再び工場勞働に從事するとか、或は又かゝる場合に幼兒に乳を與ふる等の結果は、必ずや大なる影響なくてはならぬ。子供が軟弱なる體格を有するに至り力弱きものとなる等恐らく其結果でなくてはならぬ。尙疲勞が夜間勞働を爲す女子に及ぼす影響に大なるものあることも瞭かである。

經濟に及ぼす影響。疲勞より生ずる不經濟は病氣より生ずる不經濟よりも遙に多い。フイシアー教授は曰く、過度の疲勞より生ずる經濟的浪費は重き病より生ずる浪費よりも甚だ多い。凡そ一人に對する重病の平均は、毎年約二週間に當ることが解つて居る、そして此數は一年の約百分の四に當る。

之を別言すれば人口百人に付き四人は常に病氣てある。然るに過度の疲勞に依る局部的不能に苦惱する者の數は、全人口の大多數を占めて居る。惟ふに此事は如何なる觀察者も認めざるものなからん。殊に社會衞生の研究家は、少年少女の間に於てすらも此事實を認めることが出來ると云つて居る」と。

損傷に及ぼす影響。疲勞は疲勞そのものに於て損傷てある。フィシアー教授の計算に依ると、人口の少くとも百分の五は疲勞より生ずる損傷に絕へず惱まされて居る。然し疲勞は更に大なる病患に對する素因作製原因として更に甚しきものである。既に述べたる如く、疲勞と疾病とには疑も無く密接關係がある。過度勞働に基く比較的僅少なる能率の損傷は更に大なる損傷を來さしむるのてある。一寸した煩、不快を重病の原因として觀察することが疑も無く肝要なる如く、疲勞より生ずる無能損傷は些細な煩に對する第一步として重大な意味を有つて居ることは當然てある。最初に疲勞次に一寸した風邪次に結核症次に死亡、之が普通の順序てある。されば豫防は初めに於て行はれなくてはならぬ」と同教授は述べて居る。

不德に及ぼす影響、過度の勞働は不道德の常習を作らしむるものてある。すべて過度に勞働せるものは體力弱く、其緊張した神經は或種の極端なる氣晴し、慰み、鬱散を要求することになる。併し活力とエネルギーに餘剩のある勞働者は決して前者が需むる如き不德なる休養鬱散法を採らぬものである。モソー教授は此點に關して次の如く述べて居る。「心智的なると筋力的なるとを問はず極端なる疲勞は、人間の氣質性質に變化を生ぜしめ、人間を甚だ短氣ならしむるものてある。癇癪を起し短氣を起すことは、人間の高等なる性格——野蠻人の腦力と文明人の腦力とを區別するものを、消失せしむる。而て吾人が疲勞したるときには、最早吾人自身を統制することは能はざるに至るのてある。卽ち吾人の感情は甚だ激烈となり、從つて感情を理智に依つて支配することも能はずなるのてある」と。

尙過度勞働と大酒暴淫との關係は左程明瞭にされては居らぬが、此間にも何等かの關係亮かに存し、大酒暴淫が過度勞働より直接生ずることも屢々主張されて居る。又過度勞働と犯罪との關係も研究するに價あることゝ考へられる。

事故に及ぼす影響。過度勞働の影響は、以上に述べた如く種々の疾病及不德とに及ぶものなることを檢することが出來る。併し乍ら過度勞働の結果に付いて今一つの事柄を特に注意する必要がある。それは卽ち過度勞働と業務上の事故との關係てある。處て過度勞働が過度勞働者の生命と健康と道德とに影響することは亮てあるが、之が業務上に及ぼす影響の程度を計算することは甚だ困難てある。處が過度勞働の影響を計量し得る一の方面が玆に在る。それは此影響が產業上の事故に及ぼす場合てある。

一日中如何なる時間に事故が生ずるかを檢する爲めに幾多の研究が遂げられて居る。今佛國に於ける運送業に於ける事故の研究結果を報告したものに依ると、使用勞働者の總數は約七千人てあつて、

朝間の事故數	
七　時	二五
八　時	三〇
九　時	二〇
十　時	五七
十一時	六三

午後の事故數	
一　時	一八
二　時	四〇
三　時	四五
四　時	一〇五
五　時	一一八

である。而て此表に依ると、事故の數は、正午に至るまでは殆ど規則的に増加して居るが、午後の一時には一日中最も低い數になるものなることが解る。併し午後の進むに伴れて、事故數激增し、四時には一時のときの六倍になつて居る。又事故は主として午後に起つて居る。即ち朝間に起つた事故は三割七分の率に過ぎないが、全事故數の四割二分に當るものは一日の最終の二時間に起つて居る。更に詳言すれば此最終の勞働の二時間に於ける事故數は、朝間の五時間全體を越ゆることと正に五分の割合である。

又製造業に對して是と同樣に調製した統計表に依ると、朝間の最終時と午後の最終時に於ては、事故の數が減じて居る。蓋し之は、活動を緩慢ならしめて生產率を減ずるか、或は勞働時間の最終數分間に於ける激減が何れかに依るのである。

而て過度勞働と疲勞と事故との三者に一定の關係ある事は明白である。即ち疲勞せる勞働者は注意の程度少なく、又其銳敏なる度合も低い、從つて彼の能力は鈍る。そこで注意不足よりして事故が起るのである。

五　過度勞働と救濟法及世界的立法

過度勞働―疲勞―疾病―不德―事故―是等のものは、既に之迄論じた如く其能率に及ぼす影響と道德に及ぼす結果とに依つて、國民的安寧を頗る害し、社會的經濟的損害を大に釀すものである。されば過度勞働は之を全然撤廢すべきものであつて、現在之に基因する惡適應の殆どすべてを救濟するには、勞働時間短縮、只此一事に在る。

今や近代社會の產物はあらゆる社會的需要を充たすに殆ど十分である。原始社會に於ては、勞働は大不足の狀態に在り從つて過度勞働も正當なりしならん。併し乍ら近世狀態に於ては、過度勞働を決して正當と認むべきでない。社會は正に自ら勞死する勞働者を必要とせずして、喜に滿てる、有用なる且つ長命なる勞働者を必要とする。然り過度勞働は不必要である。歡喜、有用、長壽には、何れも過度勞働の隨伴するものでなく又隨伴し得ざるものである。

併し問題は依然、如何にして勞働時間の短縮を爲すべきかである。資本家の無自覺と勞働者の苦惱とは依然著しき對照を爲して居る。勿論勞働者は着々此撤廢運動を繼續して居る。若し資本家にして、軍人が斷然妻子に別れて戰地に趁くと似たる勇氣と果斷とを得る事能はず、經濟上社會上の卑怯を敢て繼續するならば、勞働者は、益々其運動を盛にして目的の達成に努むべきである。

しかし此運動と此爭鬪とを外に極めて簡單且つ完全なる撤廢方法がある。それは社會的立法に依るの一事であるが、之も政治家の執掌する所であつて、現在は資本家と同じく勇氣と果斷とを缺いて居る。是に付て何等指南車を有さない。只

時の到るを待つものゝ如くてある。勞働組合法すら未だに制定して居らぬ。目下該法文の起草中てあると云ふが、それも果してどんなものが出來るか疑問てある。況んや八時制確立おや。

しかし、しかし、茲に大福音がある。最近に終を告げた世界勞働會議の努力と成果とてある。同會議はもと、最高の能率は八時間基礎の上に維持せらるとの理想を以て、世界の勞働狀態を改造せんが爲めに、講和會議の結果、開催されたものてあつて、過度勞働の撤廢、即ち勞働時間短縮の問題を、世界各國の勞働者、資本家及政府の各代表者が集まつて、世界的に協議し決定し解結せんと企圖したものてある。而て今や同會議は、好成績を以て問題を議了たるものゝ如く、過度勞働全廢の家屋に大光明を點じたのてある。過日勞働會議の成果として政府の發表する處に依つて見ると、同會議は其一般協定に關する分に於ては先づ勞働時間制の適用を受くる產業の種類を決定し、次いて勞働時間は原則として一日八時間且つ一週四十八時間を超過すべからざることを決定して居る。

但し日本は、未發達の產業國として八時間制の例外を認められ、五十七時間、即ち原則時間に比し一週間を通じて九時間を超過する時間數を原則とする旨を決定されて居る。而て毎週二十四時間の休日を與ふること、あるを以て、勞働日六日として毎日九時間半の勞働を原則とするに至つたのてある。咄、是をこれ過度の勞働を强ゆるものと云はずして何ぞや、何たる不面目のことゝ云はずして何ぞや、此責任が何人に在るかは、茲に論議するの限に非ざれど、此決定が日本の勞働者を侮辱せるものなるは云ふまでもない。從つて吾人は此後尚此撤廢運動を繼續すべきてあつて之が完全なる實現を將來に期さねばならぬ。

遮莫、此例外時間制も無きには數等勝る、吾人は之を日本現在の勞働者に對して一大福音と叫ばざるを得ない、尚同會議が、婦人保護案及婦人夜業禁止案を通過したること、現在勞働者の充分保證されざる國に於て勞働者の賃銀を遞減せしめざるが爲めに、「時間制の原則を採用するが爲めに賃銀を減すべからざること」を議案としたる等、種々將來の勞働狀態改善に盡せることあるは喜びとするところてある。又同會議は、國際勞働局を設置することゝ六個の條約草約と六個の建議案を、此會議に加入せる四十個國の立法部に、批准の爲め提出することを決議して居る。これまた大に歡迎すべき所てある。

畢竟するに、將來講和會議の勞働法案が批准せられ、且つ實施せらるゝは、あまり遠きに非ざるを豫想するも、日本の場合に於ては之が實施さるゝ迄も又其後も一時間半の過度勞働は殘されてある。これに付ては勞資共に、協調出來る出來ざるは別として、大に努力を要する處てある。又政府及立法府も、將來益々、幾多勞働狀態改善に付いての良好なる施設と之に對する社會的經濟的立法との確立に努力すべきは勿論、此點に關しても大に努力すべきてある。

八、十二、六、了

眞の教育者

文學博士　澤柳政太郎

□教育界の改造

今日社會に最も高く響く聲は、社會改造の聲である。教育の方面に於ても、吾等は改造を叫ぶものである。改造とは制度組織の改造であつて、勞働問題の如きも經濟組織の一部の改造である。併しながら政治上の問題の一例として、假りに選擧の制度を改造して普通選擧となしたりとするも、實際上公正に選擧すること能はずとせば、其の制度も役に立たず、格別の效果を收むることが出來ぬのである。故に他の一面に於ては、眞に其の局に當る所の人物の起ることを叫ばざるを得ないのである。殊に教育方面には眞の教育者の出てんことである。

教育上に於ける改造の一大要項は、國際的に改造しなければならぬことである國家に奉仕することは無論必要であるが尚ほ進んで世界的奉仕の精神を高調する必要があると思ふ。更に今日の一國內に於ける勞働時間、年齡、夜勤等のことも國際的となりつゝあるのであるから、教育上のことは猶ほ更國際的でなければならぬ。各國は文化的、文明的に協調を保たなければならぬ。先づ第一に義務教育の延長を叫ばなければならぬ。人類の義務教育に對し、世界の各國が何故國際的統一を要求しないのであらうか。怪訝の至りに堪へない次第である。然して我が當局者は種々の事情や、多くの費用を要することの爲めに、此義務教育の延長を躊躇して居るのは、甚だ遺憾であつて此際一大英斷を希望せざるを得ない。

□學生の門戸解放

機會均等は教育の本義であつて、中等教育も、高等專門教育も、機會均等でなければならぬ。此等の學校入學志望者に對して、其の門戸の大部分が閉鎖せらるゝと同樣の有樣であるに拘はらず、格別の不平の聲が起らぬのは、奇妙であると云はねばならぬ。卽ち斯の如きことは、西洋の諸國にはなく、入學すべき資格さへあれば、必ず入學することが出來るのである。然るに我が國だけが門戸狹隘の爲めに、入學有資格者の大部分が、拒絕を餘儀なくせらるゝのであつて、誠に不都合極まるのである。是に對して一般國民中何等要求することなく、沈默を守つて居るのは、確かに不可思議の一つであると思ふ。此の不都合ある爲めに、多くの青年學生の向上心を抑制し、國運の隆昌に打擊を與へつゝあるは遺憾である。

又我が國教員の待遇に著しき差別がある。卽ち初等教育者の俸給は中等教育者の俸給の約半分であり、中等教育者の俸

給は高等教育者の俸給の半分又はそれ以下である。そして之を以て當然のことゝ思ふのは、誤解の甚しきものである。歐米は然らず、勿論多少の差別はあるけれども、我が國の如き顯著なる差別はないのである。教員は簡易生活を主とすべきは論を俟たぬが、夫れには程度のあることを知らねばならぬ。我が國に於ては、目下高等教育に從事する者も、中等教育に從事する者も、其の待遇の菲薄なるに苦しみつゝあるのである。況んや初等教育に從事する者の生活狀態が、如何に悲慘なるかは想像に餘りあるであらう。

□兒童中心主義

教育の本義より考ふるならば、制度案より必要なれども、精神的の眞教育を施す必要がある。眞の教育は兒童本位の主義でなければならぬ。是れは新説ではないが、要するに兒童の發育の程度に由りて、教育を施すことを努むるのである。教育は智識を詰め込むにあらずして、兒童の天賦の能力を啓發するにあるが、實際上に於てどれだけ實現せられたかを考ふるならば、何うも形式に流るゝ弊があるのである。此に於てか兒童中心主義説の起るのは當然である。私は大正六年の春より極めて小さき小學校を經營して居るが、兒童の能力、希望其の他に適應する教育を施しつゝあるのである。

現下一般教育社會の狀態は、既に献立せられたるものを如何にして兒童に授くべきかを考慮する有樣である。國定教科書の如き、果して兒童を中心としてあるや否や、疑なき能はずである。どうしても兒童を愛する眞の愛情が缺乏して居つて、教案、教科書等に拘泥する弊がある。私の關係して居る學校に於ては、教員を選擇するに兒童を眞實に好む人物を第一の要件として居る。併し實際の有樣は不充分の感あるを免れぬが、兎に角教育其れ自身が兒童中心主義でなければならぬ。そして兒童を愛する愛心は、今少し深くなければならぬ。

□ペスタロッチと松本

兒童を愛する愛心を、申分なく持つて居つた模範教育者を求むるならば、ペスタロッチである。同氏は人類に對する愛心を有し、殊に貧民を愛する熱誠を有して、之が救濟に努力した人物である。そして此高潔にして熱烈なる愛が、油然として兒童に向つて注がれたのであるから根柢の深いのは當然と云ふべきである。

松本虎雄君は一兒童の爲めに犧牲となられたが、あゝいふ刹那の場合には、他の人も同じ美擧に出づるやも知れぬ。併しながら松本君の平素の修養と、今回の壯烈なる行動を照應して觀るならば、そこに誠に尊きものがある。平素沈默にして、眞正なる愛の精神を有する人であつたから、若し永く天壽を保つて居られたならば、眞の教育者として兒童の爲め又教育社會の爲めに貢獻せらるゝこと、多大であつたであらう。然るに未だ家を成すに至らずして、此世を去られしことは誠に惜しきことである。併し余は此渺乎なる我が教育界に、斯の如き愛の精神あることを顯はして、大なる刺戟を與へられたのを衷心より感謝するのである。

先日學習院長の大島君と遇つたが、其の時同君が云はるゝには「松本君のことは誠に惜むべきことであるが、斯の如き精神を有し、斯の如き行動を執る人が、何うか屢出て貰ひたい」と、余も直ちに賛意を表したのである。是れは實に愛の奉仕の然らしむる所で、決して徒爾でないのみならず、實に社會に對する意義深き貢獻であるからである。

又顧みて一般社會が翕然として同情の精神を傾注したのを觀るときは、實に力強く感ずるのである。堅實なる精神が國民の間に漲り居ることは、如何にも頼もしい。此頼もしき精神ありとせば、彼の思想の動搖の如きものも、決して恐るゝに足らざることを確信することが出來て、力強く思ふのである。（文責記者）

朝鮮に遊びて

早稻田大學教授
法學博士　塩澤昌貞

□朝鮮人の心理狀態研究の志望

私は昨夏朝鮮へ半ケ月許り行つたのみて、觀察甚だ貧弱であるから、意見を申す勇氣はない。併し朝鮮に在る鮮人及び總督府其の他の拘束を受けざる內地人に親しく接して、朝鮮人の心理狀態如何を研究したいとの志望を有して參つたのでした。其の際或る有力なる內地人士に遇つたが、其の人のいふには、朝鮮の將來は所謂行詰りの狀態にあるので、解決の途は二あるのみてある。一は力を以て何處々々迄も壓迫することてある。他の一は朝鮮人に充分なる自由を與ふることであると申したが、實際此の二つの途に過ぎない樣に思ふ。

元來內地人が朝鮮人を機械視し、之を虐待し壓倒することは、國民的道義心から考へても、許す可からざることてある。歐米でも勿論さうてあるが、併し米國の如き自由を重んずる國でも、十九世紀の發展には如何はしい點があつた。卽ち米國內の印度人を征服した事實がある。ウキルソン氏の唱道したる、例の十四ケ條中の國民自決主義と大に矛盾して居るのてある。近代の英國の如きは、海外發展に成功して居るが、此の自決問題の如きは、歷史上より愼重に考慮し研究すべきものであると思ふ。

□識見ある朝鮮人の隔意なき意見

私は平素早稻田大學に於て、朝鮮の青年學生に接し、又敎へて居るが、朝鮮人は實に內地人に劣らず、殆んど日鮮人を區別し難き觀がある。然るに支那人は日鮮人と異なり、直感的にちやんと判別することが出來るのである。

私は又朝鮮に行つて、或る見識ある鮮人に隔意なき意見を聽いたが、其の人の詞に『吾々は必ずしも獨立を欲せず、唯經濟上の利益と、權力上の關係を均等にして貰ふならば充分である云々』と、是を詳解すれば、從來の狀態から觀るならば、朝鮮に於ける百般の事業は、內地人のみ關係して、朝鮮人には關係することを許さず、又權力卽ち官吏となる權の如きも、日鮮人間に待遇上著しき差別があるが、自今是等の總ても撤廢して同等にして貰ひたいと云ふのであつて、大體道理ある要求と思ふのである。由來我國は隣接民族を包容して、發展すべき使命を有して居るのであるから、吾々國民が此の大度量を有さなければならぬ。

□內地人の狹隘固陋

元來日本人は露骨であり、狹隘である大缺點を有して居るから、朝鮮人を輕蔑し卑下する心理狀態が、却々去らないのである。其の一例を擧ぐれば、昨春法曹界に起れる事件があつた。其は從來朝鮮の辯護士會が、內地人と朝鮮人と別々になつて居つたのを合同した結果、會長の改選を行ふたるに、鮮人が會長に當選したので、內地人側が不平を起し、又々分離したのである。是れは實に日本人の狹隘固陋なる證にして、道德上誠に陋劣であると云はねばならぬ。

又朝鮮の僻遠なる地方に居る役人より一つの實話を聽いた。それは內地人の官吏は橫暴であつて、鮮人の官吏を壓迫卑下する傾向のあることてある。例へば內地人が上官として地方へ赴任するときは、其の地方廳の下官は、內鮮人の別なく皆出迎ひに出るけれども、鮮人である上官が赴任するときは、其の下官たる內地人は決して出迎ひに出ないと云ふことてある。是れなども誠に小事の如くてあるけれども、同一の禮儀を守り同一の待遇をなすべきてある。要するに是等の偏頗なる內地人の頭を、全く一掃し改造して、朝鮮民族の反感を去らなければならぬ。

□英國埃及統監ロード クロマー卿が大隈侯に與へたる書狀

故伊藤公が統監であつた時、一埃及人が英領埃及統監ロードクロマー卿の大隈侯に對する紹介の手紙を持參して同侯に面會した。其の節私も同席して其の手紙を讀んだのであるが、其の手紙の中には「朝鮮人の福利を增進することは必要と思ふ。日本は如何にするか興味を以て見て居る」云々とあつたが、實に穿てる言葉てあると思ふ。吾々は百年前朝鮮人及支那人を優秀なる民族と思惟した時代もあつたが、それは兎に角として、今日朝鮮を共同の位地に置く內地人の頭を大に改造して、自由、平等、仁義、博愛の正道に據ることも心掛けねばならぬ。私は誠意誠心を以て日鮮人の融和を圖ると云ふことは、朝鮮人にも大いに希望する所てあるが、內地人には特に深く切望するのてある。（講演大要文責記者）

最近の廓清運動

□本部大演說會

十二月七日午後六時神田青年會館に於て、本部大演說會を開く。此會は會則變更第一聲にして主事伊藤秀吉氏開會の辭を述べ、第一席益富政助氏は「吾黨の立場」と題し、廓清會の新運動と其立場を明にし、二席伊藤富士雄氏は最近の議會政の趨勢を述べ、三席　ケ崎・三郎氏は「羅馬東京間大飛行の文化的意義」と題し、例の如き大演說をなし、四席安部磯雄氏は「勞働問題と勞働問題」と題して、其類似點共通點を述べて解決の必要を力說し、第五席島田三郎氏は「勞働問題と禁酒」と題し、勞働者の自覺と共に禁酒の必要なる所以を高唱し、大喝采の裡に十時半閉會した。來會者約八百餘名、入場料八十二圓、即時入會者三十名。

□長野に於ける廓清演說會

ノルマン氏、林哲輔氏、山口義藤氏等の盡力にて十一月十五日午後七時長野市メソヂスト敎會堂に於て開會。ノルマン氏開會の辭を述べ、伊藤秀吉氏は『男性淘汰より女性淘汰へ』と題し、女性中心說より、女子の婚に對する自覺を說き、島田三郞氏は『社會問題の根本解決』と題し、佛蘭西革命より說き起して、社會改造は結局人心の改造になることを滔々二時間に亘つて述べ、大喝采の裡に十時閉會。來會者六百滿堂立錐の餘地なく聽衆堂に溢れ即時入會者四十名を得た。

□松本に於ける演說會

十六日午前十時松本市メソヂスト敎會に於て開會、牧師北澤鐵治氏開會の辭を述べ、伊藤秀吉氏廓清會の立場を述べ、島田三郎氏は社會問題に就て雄辯を振ひ十二時閉會。聽衆二百堂に溢る。

□辰野支部發會演說會

辰野町に於ては、林正晋氏の非常なる努力によつて支部發會式を擧ぐるの盛況に達し、午後二時同氏開會の辭に次て、伊藤秀吉氏は『公娼廢止論』と題し、公娼制度の廢止すべき理由を、島田三郎氏は『社會問題と廓清會』に就て二時間に亘り大演說を試み、非常なる感動を與へ、五時閉會、聽衆七百、即時入會者五十餘名を得た。

興味ある二つの問題

三輪田高等女學校長
廓清會評議員　三輪田元道

□社會一切の問題は凡て廓清問題

私は廓清問題ほど生きてゐる問題は他に類が無いと考へてゐる者である。勿論政治問題乃至は勞働問題等の如きものも生きてゐる問題には違ひないが、或者は黨派的政策に傾き又或者は一時的であつたり一部分的のものであつたりして、廓清問題のやうに社會の全般に亘つて居るものでないことは明かである。例へば資本と勞働の問題は其階級に屬する人達に關係のある事柄であつて、他の人達には餘り利害關係といふものがないから、何うしても對岸の火災視するやうな傾きがあつて、此の問題に與らうとはしない。又宗教問題等の如きも、其宗派に屬する信者丈は極めて熱心であるが、他の人達は矢張り冷淡な態度に出てゐる。

然るに廓清問題にあつては大にしては同胞の問題であり、小にしては家庭の問題であるから、從つて職業の奈何を問はず、階級の上下に關せず如何なる者と雖も廓清問題に解れぬものはないと謂つて差支がないのである。だから此の廓清問題さへ解決する事が出來れば、政治は進歩し、經濟は發達し、宗教は普及されるのであつて、一切の源は卽ち廓清問題にあると斷言するに憚らぬのである。

□無氣力なる我國の婦人

昨年中に於ける社會問題の中に二つの主なるものがあつた一は卽ち全國高等女學校長會議の決議であつて、他は文部省の主催に係はる生活改善展覽會を動機として、生活同盟會といふものが新たに生れたといふ事である。此二つは共に昨年初めて生れたものであるから、未だ物も言はず歩みもしないが、本年は是非とも之れを發達させそして社會的勢力を得せしむるやうにしなければならない。私の考へから謂ふと必ず前途に良結果を齎す事に相違ないと嬉しく思つてゐるのである。

先づ高等女學校長會議の趨勢から考へて觀ると、女子の爲めに高等敎育を授くる處の機關を設くる事、現在に於ける高等女學校の修業年限に關する事及び學科課程を高める事等が主要なる問題となつたのである。謂ふ迄もなく是から後の社會問題は婦人の手に依つて解決されねばならぬにも拘らず日本の婦人は勢力が極めて微弱なるが爲めに奈何ともする事が出來ないから、勢ひ男子の援助を乞ふ次第である。

翻つて遊廓並に待合等を中心の問題として考へて觀るも彼等は人格といふものを認められて居らぬ。現在の世の中にあつて宛然人身御供と謂はふか、餓鬼道と謂はふか或は畜生道と謂はふか乃至は修羅の巷と謂はふか、何れにしても恰度歐洲戰亂の辛酷なる光景のやうな狀態が演ぜられてゐるのであつて、是れを觀ながら其の同胞が何とも感じないといふ事は寔に遺憾千萬な話である。我國には敎育智識ある社會改良を以て任ずる婦人が少ない。ない事はないが我國の全體の上から觀ると、悲しいかな曉星の如くに眞に寥々たる感がある。是れは何うしても女子の高等敎育機關を發達せしめて、女子の博士が續出するやうになり、延いて一般が緊張し社會に向つて堂々と己れの意見を述べるやうにならなければ駄目である。だから廓淸問題の背景は矢張り女子の敎育を高めるといふ事が何よりも大切となるのである。

□一變したる高女校長の會議

從來我國に於ける女子敎育の方針は保守主義であつて、婦人は先づ裁縫が出來て炊事洗濯が出來れば、夫れで能事了れりといふやうな主義の下に敎育されて來たのであるが、是からの女子敎育は到底そんな保守的のものでは、此の進步した社會に立つて用が足りなくなつて來た。だから先づ人間を改造せなければならない。靈を料理せなければならない。そして頭の中を洗濯せなければならない。斯樣に大きな仕事をせねばならぬ次第となつたのである。

斯る形勢の下に這般の高等女學校長會議に於ては、高等學校程度のものを作る事、大學の門戸を開放する事、又從來の程度を高める事といふ樣な決議は何れも廓淸問題の立場から觀て强味を增した事となつた譯で、確に新福音といふ事が出來る時代になつたと思ふのである。其他の主張の中に體育部を設ける事といふのがあつたが、是れなども從來のやうな虛弱な體格を持つ婦人てなしに、立派な婦人を作らなければならぬといふ事は、是れも矢張り廓淸問題に觸れる事であつて、大に喜ぶ可き事と謂はざるを得ないのである。要するに高等女學校長會議の趨勢は從來から觀ると餘程面白くなつて來た。所謂保守主義退嬰主義から蟬脫して進步主義になつたといふ事は實に喜ぶ可き現象であると思ふ。

□熱し易く醒め易き日本人

次に從來の文部省敎育博物館は保守的といふよりも寧ろ消極的であつた。只だ何となしに理由も判らない物は其處へ持つて行つたら何うかといふやうな譯で、例へば馬の角だとか或は龍の鬚だとかいふやうな、珍らしい物だといふ事であれば何でも彼でも持つて行くといふやうな次第で、全然生活問題を離れた所謂骨董品を集める事のやうに考へてゐたのであつた。實際敎育博物館といふ立場から云つても、さういふ事は其の主旨に反する事であつて、眞實の敎育といふものに添はぬのは明かである。然るに近來に至つて官廳其の宜敷を得るやうになつて、文部省當局も餘程考ふる處があつたと見え、積極的手段に出て生活を本位に活動せなければならぬといふ事になつたが爲めに、時折必要な催しを爲すに至つたの

てあるが、其の中昨年末から今年の正月に懸けて開催されつゝある生活改造展覽會の如きは、社會の機運に觸れたが爲め、非常なる喝采を博し同時に社會の大なる同情を得たのである。併し此の極めて有益なる催しも僅かに六十日間て終るといふ事であれば、恰度彼の有名なる俳諧師芭蕉が嘗て鎌倉に遊むだ時に讀むだ俳句の「夏草や强者共の夢の跡」といふやうな、一時は騷いても直ぐ忘れられて畢ふ虞れがある。我國に於ける全體は凡てさういふ傾向があつて、宛然煙火のやうに一時はパッとして珍らしいが、跡は其の印象を殘さないといふ。文展又は帝展のやうに何十萬人といふ人が押掛けては來るが、それはホンの一時的のものであつて、集つた程に其の反響が現はれぬといふ處から觀るも全くお祭り騷ぎの感がある。

□生活改善同盟會と廓清問題

然るに同志の者が相集つて生活改善同盟會を作り、社會改良の爲めに盡さうといふ事の此の中には無論廓清問題が含まれてゐるのであつて、僞善と虛榮の風潮を打破しやうとすると同時に、飲酒を廢する事少くとも獻酬を廢する事、卽ちアルコールの問題を解決する事に及んでゐる。私達は我國の婦人の貞操が此の飲酒といふ事が動機になつて遂に蹂躙されるに至るといふ事を考へずには居られない。飲酒に依つて刺戟されそして動物慾を滿足せんとするが爲めに、遂に野蠻的の行爲に出づるといふ結果になるのであるから、何うしても是れは全廢する事が緊要である。禁酒さへ斷行すれば遊廓料理店乃至は待合等の如きものは、現在の三分の一に縮少されて了ふ事は明かであつて、要するに私娼撲滅又は公娼廢止も共にアルコールの問題さへ解決する事が能れば容易なものであると思ふ。だから此の問題も禁酒といふ方面からも十分に考へ、今度は禁酒の同盟を作つて宗敎職業等の奈何を問はず協力一致相共に生活の改善と風敎の刷新とに意を注ぐやうに努めなければならないのである。

斯く生活改善同盟會といふものは、廓清問題の立場から觀るも寔に喜ぶべき而して歡迎すべきものであると考へると同時に實行せんとする其實行箇條を見るも寔に喜ぶべきものがあるのである。從來宴會と謂へば盃盤狼藉、やれ二次會だ三次會だと限りのない醜態を演じつゝあるが、此の事も實行箇條に加へられて居るのであつて、表面は宴會を打破するといふ事にあるが、他の一方には醜業をば減ずるといふ意味にもなるのである。だから此の同盟會の規約が直に廓清問題に觸れて來る。尙ほ規約中に人格を尊重する事が規定されてある。卽ち表面は雇人の人格であるが實は一般同胞の人格を高めなくてはならないといふ處からであつて、此問題が解決さるれば醜業婦問題も又た解決されるに相違ない。

處が廓清問題の立場から常に遺憾とする處は公娼並に私娼等の人格を認めないといふ點である。彼等の人格を認めて自由を與へたならば自ら廓清する事になるのであるから、先づ雇人の人格を尊重する事は軈て如何なる階級の人達も其の人格を認めなければならないといふ事になる。是れは廓清會に取つて誠に良友を得た事と謂はなければならない。

□味方を得たる廓清會の强味

尙う一つは弱者を助けるといふ事であるが、是れも同盟會の規約の中にある。卽ち群集の際に小供や老人や又は婦人等が腕力に依つて壓倒されてゐるといふ事は誠に惡しき風俗であるといふ處から、電車の中に於ても道路を通行する場合でも、常に弱者を助けるといふ事を鼓吹する事を考へねばならぬといふ主意なのである。此の世の中に浮川竹の境遇に身を置かれてゐる人、卽ち不潔なる巷に生活する人、結局今日の弱者といふ者は金のない人の事であるが、單にそれ許りではなく兩親がない者とか乃至は他人に誘拐された自分の意志の鞏固でない者を助けやうとする事は、共に廓清問題に關係のある事であつて、要するに昨年中に起つた高等女學校長會議の趨勢と、新しく生れた生活改善同盟會は社會の改善、風俗の改良のやうなものを中心の問題として生れたものであるから、廓清とは名と形は違ふが其の主旨に於ては相一致する者があると思ふのである。此の故に我々は同趣味の者を得て而して是れと結束をして强い力で、飽く迄惡風潮を打破せねばならない。一人や二人は違ふけれども同主張の下にゆく人は同士で約束して初めて社會を理想的に導く事が出來ると考へる。私は此の意味に於て本年度は昨年の此の二つの會議の趨勢と生活改善同盟會の規約とが、本年度に於て實現する事を希望し、而して私も及ぶだけ盡力したいと考へてゐるのである。

◇奇怪なる通信雜誌起る

本會々員某氏は左の如き奇怪なる手紙を受取り、驚いてこれを本會に寄せられた。

拜啓時下秋冷の候貴家彌々御機嫌麗敷被爲居候條慶賀御事に存上候偖而小生儀今回下銘の場所に東京花柳通信社を興し花柳演藝の機關たる月刊雜誌『人氣』を發刊仕候に就き多大の御引立と御賛同とに與かり度左に通信社の目的と仕事の大略を御披露仕候

一、東京花柳通信社は全國各花柳界の出來事將來の計畫等一切を各新聞社初め社會各部に通信するを目的とす

（イ）通信は東京各新聞へ送ることのを第一個とし順次各會社各家庭各藝妓事務所料理店待合桂庵等に配附す

（ロ）藝妓の披露目廢業は勿論其の功名談、愛嬌有る失敗談、身の上の變動、四季移り替りの新奇なる衣裳等の紹介、花柳界各事務所の出來事料理店待合の開業改築披露、各種の催し物其他一切花柳界に關する報道を網羅して剩さず（前借踏倒し等の惡手段を作するものありし時の如き直に通知す）卽ち同盟會に屆出たる者の氏名件所

一、通信の精神は花柳界の繁榮發展を計るを第一とし各社會と花柳界との疏通融和に努む

（イ）花柳界の災厄等に就いては好意的報道をなすも故らに其の衰狀を擴むるが如き事をなさず、之を要するに人氣に障るが如きを絕對に避け努めて其の廣告引立に任ず

一、通信事務の外に花柳界一切の世話方に應ず可く有らゆる便宜を計る

（イ）花柳界に於ける催し物等有る時は社員出張應援す可く其筋との交涉各新聞社への挨拶記事掲載方等に盡力し御要囑に依ては其の道の專門家を依賴す可し

一、贊助員として斯道の通人名大家より各新聞社歷々の御快諾を得たるを以て花柳界に取つても多大の慶福たるを得可し

右の如くに候間何卒各位に於て遠かなる御承諾を仰度伏而奉懇願候不宣

大正八年十一月

高丸　蕉風、　馬場　清唱、　山中　靜彌
市村　俗佛、　伊坂　梅雪、　河村錠太郎

羅馬東京間大飛行の文化的意義

早稲田大學教授
廓清會理事　内ケ崎作三郎

□ダヌンチオの壯擧

唯今私が最も趣味を持て考へて居る事は、羅馬東京間の大飛行に就てゞある。而して勢ひ結論としては國際道德にも關聯し或は廓清會の根本主張である所の問題にも觸るゝ事になると思ふのである。

ダヌンチオと云ふ伊太利の文豪が此度の大戰爭に飛行將校となつて大飛躍をした、即ち春秋の筆法を以てすれば『筆を棄てゝ銃劍を事とす』で、平和になつた今日に於てはフユーメを占領し、伊太利の獨立運動の際に將軍ガルバルヂーが行ひたる如き事業を今日計畫して居るのである。そのダヌンチオが羅馬東京間の大飛行の計畫を發表し着々準備を整へつゝある。我陸軍省に於ても之を歡迎する爲めに六萬圓位の金を準備してあると云ふ事を新聞紙は傳へて居る。

或人は此飛行に反對して、ダヌンチオは有名なる小說家ではないか、ダンテ以來の最も有名なる伊太利の文豪である。其文豪が賣名的に斯う云ふ事をするよりは、寧ろ書齋に於て更に人生の深い微妙なる所の作物を出す方が宜しいてはないかと云ふやうな非難もあるやうである、併しながら是は從來德川時代に於ける戲作者氣質と云ふものと文士の生活とを結び付けて考へて居る今日の日本の文壇の誤解である、文學は人生の批評である、隨て文學は人生の有ゆる問題を取扱つて宜しいのである、けれども偶々ダヌンチオが其青春時代に於て著したる作物は濃艷なるものが尠くないので此ダヌンチオの飛行すると云ふのは恰も井原西鶴が飛行機に乘つて來ると云ふ樣な感じをして居るのであるが、近代に於ける歐羅巴及び米國の文士と云ふ者或は詩人と云ふ者は、我國の德川末期に於ける戲作者氣質と云ふものを既に超越して人生の批評をなして居るのである、露西亞の有して居るものは露西亞の文學之を證明し、英國は英國の文學之を證明し、佛蘭西獨逸又自國の文學之を證明して居るのであるが、伊太利のダヌンチオも元より其例に洩れないのである、然るにそのダヌンチオが日本に飛んで來ると云ふ事は、啻に日本伊太利の文明を接觸せしむると云ふのみでなくして大なる意義があると思ふのである。

□輕氣球の發達史

近代の文明に於ける飛行術の貢獻と云ふ事に就て吾々は聯想せざるを得ない。近代の飛行術と云ふものは極めて新しい事である。飛行機に先んじて發明せられたものは風船であつた。雲が空中に浮んでゐるのから思ひ附いて千七百八十三年佛人モントゴルフィアー兄弟によつて創案せられた。英國に於て曾て水素の發見せられたのは一千七百七十年である。水素は御承知の通り空氣より十四倍輕いのであるから、之を袋に入れて空中高く飛ばすと云ふ事からして、輕氣球と云ふものが案出せられた。最初に空中の人となつたのは佛人フランソウ、ピラートル、ドロズエーであつた。それより幾何ならずして輕い瓦斯發動機を付けると云ふやう

な事を考案した人があつて、更に一千八百九十四年獨逸のツエペリン伯が硬式氣球所謂ツエペリン飛行船なるものを案出し、飛行機輕氣球の上に非常なる進歩を遂げたのである。尤も是迄に歴史的事件として一千八百七十年普佛戰爭の際に巴里が重圍に陷つた時、内部と外部の聯絡が取れない爲めに其處に閉籠つた人々は、輕氣球に乘つて外國との聯絡を保つたと云ふ物語がある。

日本の歴史にも明治十年に遡つて見ると、矢張り普佛戰爭と同じ場合の西南戰爭を聯想するのである。熊本城が薩南の健兒一萬五千に圍まれた際に、内部と外部との聯絡が途絶したのである。此時陸軍省に於ては輕氣球を作つて熊本城に送らうとして、海軍の某技監に其製作を賴んだのであるが、中々思ふやうに行かなかつた、そこで更に一萬圓の金を投じて之を士官學校に依賴したのである、當時の士官學校は充分なる參考品もなく、種種工夫を凝して不完全ながらも出來上つた。それは非常に大きい輕氣球で、大きい袋を作つて其袋にゴムを塗つたもので二人の人が乘る事が出來たのである。それには望遠鏡も付いて居れば寫眞機も載せる事が出來たのである、高さが三十六尺直徑が二十七尺其容積百十立方尺ある。可成り大きい物を作つた。然るに其輕氣球が出來上つた時には熊本の圍みは解けて、猛り狂ふたる薩南の健兒も段々と故郷の方に退却した後であつた爲めに熊本に於ては之を飛ばして見る事が出來なかつたのである。そこで翌年今の市ケ谷の士官學校の落成したる際に之を飛ばして見て非常なる喝采を得たと云ふ事である。是が即ち日本に於ける輕氣球の歴史である。

□飛行機の發達史

それから飛行機の發達は何時からであるかと云ふと、此飛行機は矢張伊太利に關係がある。歐羅巴に於て最初に飛行機の事を考案した人は、中世紀に於ける伊太利の文藝復興の魁として、數學を好み哲學を愛し、政治に勢力を有して居つたレオナルド・ダ・ピンチと云ふ貴族であるレオナルド・ダ・ピンチの事は文藝復興の歴史に依つて記憶する所の一大偉人であるが、此人は萬藝に通じたる人で一として適せざるなしと云ふ人であつた。此人の書き遺したものゝ中に飛行機の模型がある。當時飛行は必ず可能なるものであると云ふ事を豫言したのであつて、其點よりしてもレオナルド・ダ・ピンチと云ふ人は記憶せらる可き人であると思ふのである。

それから色々の人が色々の飛行機を案出し、中には大きい傘のやうなものを拵へて、傘の上が廻轉するやうな事を考案した人がある。然るに一千八百四十二年になつて英國のヘンソンと云ふ人が、平面式飛行機を考案した。今日の飛行機は皆平面式飛行機である。千八百八十七年にダイムレルが瓦斯發動機を使用して新生面を開いた。一千九百年亞米利加人ライトが並行的平面飛行機を考案して、千九百三年に二十馬力の瓦斯發動機を付けて飛翔し、世界の耳目を聳動したのである。今回の羅馬東京間の大飛行の飛行機は一千馬力の瓦斯發動機を付けて居るのであるからして、僅十年間に二十四馬力の瓦斯發動機が一千馬力と云ふ大なる發達をして居るのであるからして實に長足の進歩發達であると云はねばならぬ。

佛蘭西に於てはフアルマン、ブレリオと云ふ豪い飛行家が出て來て之を大成したのである。今日の飛行機は戰爭の爲めに長足の進歩を遂げたのであるが、一千九百十一年の春であつた、私がオクスフオードに居つた時に、ライトが倫敦から飛行して來た時には、オクスフオードでは皆吃驚したのである。それが今日では斯麼事は少しも珍らしい事ではない。ブレリオが英國海峡を飛び越えたと云ふので是にも非常に驚いた、けれども今日は既に太西洋を横斷して、今正に太平洋を横斷せんとして居るのである。斯る狀勢より考へて見るのに茲十年間に飛行術の進歩は實に驚く可きものがあると思ふのである。

□日本に於ける飛行機の發明、

日本に於ても飛行の歴史はあるのであつて、寛政年間に岡山に、表具師の藤吉と云ふ人があつた、此人が或時鳩を捕へて來て鳩は何故に飛べるかと云ふ事を研究して、鳩の重量を計つて其重量に對する兩翼の大きさを比例算を以て割出して而して自分の身體に相應しい大きな羽を造つたのである。胸間にバネを仕掛けて飛んで見たけれども飛べなかつたのである。それで今度は屋根の上に登つて飛んで見た所が屋根の上からは飛ぶ事が出來た、それから面白いので方々飛び廻はつた。恰度春の初めであつたので花見に行つて見たいと云ふ好奇心から飛んで行つて、知つた人はゐないかと低く飛んで探さうとすると墜落してしまつた。さあ今迄酒盛りをして居た連中は鞍馬山から天狗が飛んで來たのだと思つて驚いて雲を霞と逃げてしまつた。それから藤吉はそこらに食ひ殘りの御馳走を喰べてもう一度飛んで見やうと思つてやつて見たが飛べない、餘り御馳走を澤山喰べて胃嚢が大きくなつたから飛べない、それで仕方がないので重い翼を舁いで家に歸つて來た。其事が役人の耳に這入ると捕縛されて是は以つての外の事である、世人を驚かす者てこんな人間は今にどんな事をするか分らぬと云ふので、遂に其兩翼を取上られて其上に岡山から放逐されたのである。

封建時代にはさう云ふ事をやつて少しでも豪い事をすると、此者は將來何をするかも知れぬと云ふので隨分嚴しい刑罰に處せられた例はいくらもある。今日ならば差當り學士院の賞を得るとか或は赤星啓明會から補助金を受けると云ふ處であるのに彼は放逐の運命に逢つた。德川時代に於て神田上水即ち今日の水道を考へ出した女がある。幕府は其者に神田上水を拵へさせて置いて、其後で斯う云ふ事を考へ出す者は危險であると云ふので殺してしまつた。斯る事は德川幕府が自己の運命を永續せしめたい爲めに、さう云ふ偉人を殺して永く太平の夢を貪ぼらんとしたのである。

□日本文明の一新紀元

私は日本は餘程飛行術に興味を有つて熱心にならなければならぬと思ふ。日本の或る政治家の云ふ通り第一に國防上から見ても潜航艇と飛行機は最も必要であると云ふのであるが、私も第一に飛行機と潜航艇とは奬勵しなければならぬと思ふのである。それのみならず日本は從來島國文明であつて此文明は誠に海に據ふ所が多いのである。

今日日本は戰爭の爲めに成金になつた。詰り海の爲めに成金になつたのである。船の爲めに儲けたので神戸邊の成金は大抵船で儲けたのである。是は矢張海に儲けさせられたので故に海は總てのものを産み出すと云ふのである。海は文明の進歩發達に非常な關係を有するのである。然るに日本のみならず世界各國に於て今日迄船の行かない所迄飛行機は行く事が出來る。例へば亞弗利加の中央又は亞細亞大陸の中央、若くはヒマラヤ山エベレスト若くはアルプスの頂上に飛行機を着陸せしむるやうに

なると、今迄の島國の特權と云ふものは多少減少するかも知れない。

今日迄の大陸文明と島國文明と云ふものは大いに相違があつたのであるけれども、將來は飛行船も非常に發達し、恰度秋の空に蜻蛉が群を成して飛ぶ如く、飛行機飛行船が群を成して世界の何處の空中でも飛んで行くやうになつたならば、世界の文明と云ふものは大なる變化を來たすであらうと思ふ。

黄金の力を以て世界に一大革命を起し全世界を攪亂せんとして居るものがある。此者は猶太人に違ひないと云ふ事を言觸らして日本の善良なる人民を誘惑せんとする陰謀家がある。私は之を憂ふるのであるが、併しながら猶太人は決して陰謀を圖つて居るもの丶團體てはないのである。現に公論と云ふ雜誌の十二月號にさう云ふ事が書いてあるけれ共、果して斯の如き事實があるであらうかどうかと云ふ事は、餘程研究を要する問題であると思ふのである。而して私はさう云ふ猶太人は恐るゝに足らぬもので恐る可きものは外にあると思ふのである。

飛行機飛行船の發達即ち是である。今日より六十何年かの前にペルリが浦賀に來たと云ふので、日本は非常に驚いたのである。浦賀でペルリの黒船が放ちたる大砲の響きと云ふものは、日本民族の長き眠りを醒したのである。されば吾々が十六七の時に書いた作文の中には、必ず其時の事を極り文句に書いたのである。ペルリが日本に來たと云ふ事は日本民族の日本文明の發達の上に於て、重大なる影響があつたのである。

羅馬より遙々海山越えて大飛行隊が來ると云ふ事は、又日本文明の大紀元でなからう乎。矢張吾々はペルリが浦賀に來た時と同じ心持になつて、此飛行隊を觀察しなければならぬではあるまい乎。何となれば今日以後飛行機飛行船が自由に世界中を飛行すると云ふ事は、どうしても世界の思想と云ふものが共同なる目的に向つて進むやうになれば、幾ら理窟に於て國境抔と言ふた所が、空中に國境と云ふものはないのである。

□各種の社會問題と人生の根本

更に是は空想であるけれども、將來此空中に於て──日露戰爭の時から我輩は云ふた──遠からざる將來に於て太陽系と、他の遊星との間に交渉が起ると思ふのである。それは和睦的の交渉をするか或は戰爭をするやうな事になるか、私は豫期する事は出來得ないが何れ遠からざる將來に、遊星に於て人間と等しい者か、或は人間以上ㇾ者が飛行船のやうなものに乘つて來て光線の如き速力を以て、地球に向つて來ぬと云ふ事は誰も斷言する⿰は出來ぬ、勿論來ると云ふ事も斷言する事は出來ない。若しさう云ふ事になつたならば、

國際聯盟と云ふもの若くは其他のものに就て、亞米利加の上院議員ロッヂ抔と云ふ連中が、ウヰルソンを虐める爲めに斯う云ふ問題を出して、此次の大統領にならうと云ふ一種の政治的野心から、國際聯盟に反對して又講和條約に對して反對してゐるやうであるが、是は大統領選擧の終る迄の政策で、後は亞米利加上院議員も國際聯盟の下に服從するであらうと思はれる。何故ならば兎に角他の遊星から地球に向つて、光線の如き速力を以てやつて來る場合には、どうしても吾々は國際聯盟に反對したり若くは講和條約に反對の騷ぎをなして居る場合ではないと思ふのである。斯る場合に於て世界各國共同して是に當らなければならぬのである。其時にはレーニンもトロツキーも餘程温順しくなつて、世界の人類悉く協力して共に自分の國を守る即ち地球上の人類が共同して地球を守る。斯う云ふ時代が來ると思ふのである。

（斯の如き事を云ふと、實に君は呑氣な人間である。西伯利出兵問題はどうするか、朝鮮問題はどうするか、物價の調節はどうするか、普通選擧はどうするか、さう云ふ重大問題は少しも考へないで、呑氣な事を云ふにも程があると云ふ。若し私にして朝鮮問題を顧みず、西伯利出兵問題若くは物價調節問題を顧みず、將來何億年の後の事許り考へて居れば、誠に呑氣であると云ふ誹りを免る事を得ないのである。黎明會の演説會に於て私は滿堂二千以上の聽衆に對して朝鮮問題を論じた事もある。黎明會が朝鮮問題をやつたからと云ふ譯ではないけれども、それが一つの原因となつて長谷川總督は辭任せられ、新總督が赴任せられたのである。斯樣に現代の重要問題に對して之を閑却して居るものではないのである。是等の問題に就

ても大いに考慮を費して居るのである。米も餘り高くては互に困るのである。今日の通貨は十六億であるけれども、本年末になれば十八億になるであらう。さうすれば物價は益々昂騰して國民生活の安定は愈々保たれない。

私が先日仙臺の高等學校で講演致した所が、高等學校の敎師間で終りの挨拶に斯う云ふ事を云はれた。中流階級の生活は十五圓であると云ふので、それはどう云ふ意味であるかと聞くと、米が高くて九圓、酒が高くて四圓、炭が高くて二圓、そこで合せて十五圓だと云ふのである。實に斯う物價が高くなつて中流階級が壓迫せられては、實際に堪らぬからしてもう少し中流階級の生活が樂になる方法を自分も大いに考へて居るのである。併しながら吾々は萬物の靈長である。唯食料にのみ捕はれて居るには餘りに微妙なる魂を有して居るものであるから、そこで吾々は此問題を閑却せんとはしないのであるけれども、どうしても吾々は空想の翼を翔つて時に十萬年二十萬年先きの事を考へる所に、人生の價値と云ふものがあると思ふのである。

人生の價値と云ふものが官吏の如く威張つてたり、若くは人生と云ふものが資本家の如く十割の配當を受ける。若くは人生と云ふものが勞働者の如く穴の中に這入り而してストライキをやると云ふ事のみであるとしたならば、人生と云ふものは餘り殺風景なものであると思ふのである。人生に於て吾々の生活と云ふものは、もつと精神的に餘裕ある生活でなければならぬと思ふのである。

□空想の翔を驅る

百億萬年

更に十億萬年の後を考へて見ると太陽は段々冷却して太陽の光は陰薄くなつて而して遊星の生活は出來なくなる。さうしたならばどうするか、神も佛も靈魂不滅も詐であるといふ樣な懷疑的の考へを有する者があるが、斯かる論者は同時に百億萬年の後に於ける飛行術の進歩發達を豫想せざるものである。最近數年間にすら斯の如く飛行術は發展したのであるから、今日より百億萬年過ぎる時は如何に發達するか殆んど想像も及ばぬであらう。

太陽の光が薄くなつて段々暗くなつて冷めたくなつても、吾々の百億萬年後の子孫が手を束ねて死滅を待つやうな吾々は萬物の靈長ではないと思ふのである。太陽がいつ迄に冷却してしまうと云ふ事は必ず科學者が計算し出すに相違ない。さうすると早く吾々は太陽系を棄てゝ外に行かなければならぬのである。吾々は太陽系に對しては非常に愛着の精神を有して居る。況や吾々の子孫百億萬年の後の子孫は吾々より強い愛着心を有するであらうと思ふ。併しながら背に腹は換へられぬと云ふので、大飛行船を案出して全人類は地球に向つて、宛ら吾々が懷しい故郷に涙を振つて去つた如く、此太陽系に向つて人類は最後の告別をしなければならぬと云ふ時期が來ると思ふのである。

然らば吾々の指して行く可き所は何處かと云ふに、遙か彼方に輝く處の星の世界でなければならぬと思ふのである。

斯くの如きはいふ迄もなく全くの空想である。百億萬年後の事であるから斯る事は想像しなくともよい。けれども吾々は人類としてさう云ふ將來の事迄も想像し得る特權を與へられて居ると云ふ事は、吾々の省察すべき深き意義があるのである。

□マルコポーロの刺戟

一體何の爲めにダヌンチオが羅馬東京間の大飛行を思ひ立つたかと言へば、是は紀元十三世紀に於て伊太利ベニスの人マルコポーロが千二百七十一年父及伯父と三人伴れで中央亞細亞を横斷し燕京（今の北京）に來た。其當時は恰も元の忽必烈の時代であつた。マルコポーロは支那に滯在する事十七年金銀財寶を山と貰つて千二百九十五年二十四年目に故國へ歸つた。其マルコポーロの旅行記と云ふものが非常に歐羅巴人を刺戟したのである。其旅行記の中に斯う云ふ事が書いてある。支那の東方にはジパングと云ふ島がある。其島には世界第一の富を有して居る王室がある。其島には黃金は無盡藏である。恰も伊太利のミランの屋根が鉛で葺いてあるが如く、其王宮の屋根は延金を以て葺いて居る。而して其室には悉く寶石が鏤めてあつて、小さい室々には純金のテーブルが置いてあると云ふやうな事が書いてある。

そこで元の忽必烈は其金が欲しさに蒙古艦隊玄海灘を壓して來たのである。龜山上皇には深く宸襟を惱ませら

れたが、時の執權北條時宗の大英斷に依つて遂に大勝利を得る事が出來たのである。此戰爭は神風に依つて勝利を得る事が出來たに違ひないのであるけれども、今日の氣象學上から言へば低氣壓である。

其評判をマルコポーロが聞いて、而して歸國したのであつた。二十四年ぶりの彼の歸國は恰も浦島太郎の龍宮から歸つて來たやうなものである。其後ヴエニスとゼノアとの戰爭が起つた際に、マルコポーロは虜となつて獄に投ぜられた。其獄中退屈凌ぎに旅行の材料を取寄せて起草したのが有名なるマルコポーロの旅行記てある。是が歐羅巴の各國語に飜譯せられて其著述の中に日本の事をチパング國として、讀む者をして一生に一度は行つて見たいと思はしむる樣に書いてある。

そこでコロンブスと云ふゼノアの靑年がジパングと云ふ國に行つて、寶物を取つて自分の崇拜する羅馬法王に捧げたいと云ふ考を起した。當時歐羅巴に於ては地球は圓いと云ふ說が高唱せられた爲めにジパングと云ふ國は東にあるからして西へ西へと行けばジパングに到着する事が出來ると云ふので、ゼノアを出て西班牙に寄港し、それから西へ西へと航海を續けたのである。漸く日本に來たと思つたがそれは西印度であつたのである。其處へ上陸して遂に亞米利加大陸を發見するに至つた。故に亞米利加發見の恩人は日本でなければならないのである。今亞米利加人に對して其話をすると恩返しは既に濟んだと云ふて居るのである。何時かと反問するとペルリが行つて濟して來たてはないかと云ふのである。併しながらそれは日本の恩よりもマルコポーロの恩であつたのである。

ダヌンチオはマルコポーロが苦心慘憺長日月を費して旅行した所を、自分は飛行機を以て僅かの日數で飛行して見たいと云ふ考を起したのである。そこでダヌンチオは空想を恣にして、昔のマルコポーロが海山越えて或は野宿したり、野蠻人に驚かされたり、或は猛獸に脅されたりして、艱難苦勞をした所を飛行機で飛んで見たい。又さう云ふ所に飛行機を下ろして人生の妙味を味つて見たいと云ふ空想的の精神が、此ダヌンチオの大飛行を斷行せしむるやうになつたのである。

それからもう一つは歷史的の意義があるのである。(つゞく)

□女權擴張の諸運動

從來帝國議會に對する婦人の權利幸福を增進せんが爲めの建議請願は、婦人矯風會の獨占であつたが、本年になつて俄かに色々な請願が現はれて來た。先づ第一に恒例たる婦人矯風會の一夫一婦に關する請願、即ち男子の有婦姦を處罰する案を始め、海外醜業婦取締の請願と、婦女新聞社からは、女子に高等教育機關設置に關する請願。新婦人協會からは、女子の政談傍聽結社の自由を認めしむる請願並に男子の花柳病有毒者の結婚禁止の請願等が現はれて來た。

□女學校同窓會の建議

女學校同窓聯合會は、今般帝大法科に新設されたる法典編纂會に向つて、左の建議案を出す筈

一、婚姻の効力を屆出主義よりも儀式主義にする事
一、私生兒も同等の教育上の權利を受くる事(文部省檢定受驗には私生兒を許さず)
一、夫婦平等にして妻の姦淫罪と等しく夫の姦淫罪を認むる事
一、丁年以上の男女に自由結婚を許す事
一、女子教育をより高等にする事
一、家庭は從來の家長制度より個人制度にする事

□女學校長會議の八ケ條

先般の女學校長會議の選んだ六名の委員は、此程左の八項に就て實行方法を協定した。

第一、速に女子高等教育の機關を設置すべき事
第二、高等女學校の修業年限は五ケ年を以て本則とすべき事
第三、高等女學校教科書選擇の範圍を擴張し、土地の狀況と生徒の志望とにより、或程度迄任意に之を選擇せしむべき事
第四、實科高等女學校を廢止すべき事
第五、高等女學校教員の待遇を高むべき事
第六、理科及家事科の設備に關し國庫より補助せられ度き事
第七、官立體育學校並に體育に關する調査機關を擴張すべき事
第八、中等學校教員養成機關を擴張すべき事

貧民窟十年の經驗（一）

パチエラー　オフ　デビニチー
賀川豊彦

□最初の印象

明治四十二年十二月二十四日に神戸葺合新川の貧民窟に引越して來てから十年になりますからその間に研究した貧民性情の變化を報告します。

私はこの文章を、私の日記と回顧として書きませぬ。之れは私の研究の回顧てあります。また之れからの理想てあります。

明治四十二年のクリスマスの前夜に引越して來た時には、貧民窟は空家の多いそれこそ、みすぼらしい時代てありました。私も二十一の學生時代てしたが、張りつめた青年の心には、別に何物も驚きませんてした。私の住んて居る近所は皆博徒ばかりて、それには閉口いたしました。それに淫賣婦に、呑だくれとゴロツキ。初めから私はこれ等の人々にいぢめられたのてした。

その時分は不景氣な時て、蒲團が借れ無いものてすから、私の蒲團をのぞんて、宿めてくれと一緒に寝ることを申込む者は二人や三人てありませんてした。また病人の多いこと、それはお話になりませんてした。その前年は、貧民窟とその附近に十人の殺人が有つたのてした。

□貰ひ子殺し

けれども私の最も感じたのは貰ひ子殺しの多いことてした。貰ひ子殺しは多く景氣不景氣によるものと見えます。不景氣の時には、貧民窟に外から連れて來た子供が非常に増加します。私の第一の驚きは貰ひ子の多いことてした。私は最初の年に、葬式をした十四の死體の中七つ八つ以上はこの種類のもので有つたと思ひます。それは貧民窟の中部に子供を貰ふ仲介人が有つて、そこへ口入屋あたりから來るものと見えます。そしてその仲介人を經て、次へ次へと貧民窟の内部だけて、四人も五人も手を換へて居りますそれて初めは衣類十枚に金參拾圓て來たとしても、それが第二の手に移る時には貳拾圓と衣類五枚位になり、第三の手に移る時には金拾圓と衣類三枚、第四の手に移る時には、金五圓と衣類二枚位て移るのてあります。之と云ふのも現金が欲しいからで、貧民が、今日てこそ金の五圓拾圓と云へば餘り珍らしくもありませんが、その當時には、實に大切なものてありまして、金五圓て結婚も離婚も出來たものてあります。そのことに就ては別に書きますが、その現金の大切なことゝ云へば、私は貧民窟へ這入つて、初めて、金の大切なことに氣がつきました。そして金五圓の爲めに……それが欲しい許り

に、段々いためられてしまつた貰ひ子をお粥て殺して、營養不良として屆出すものですが、私はその種類の中に、最も悲慘なものを見ましたのは、明治四十四年一月二日にその貰ひ子が死んて、私が葬式をして、その後四五日してその家を訪問して見ると、また同じ形の赤ン坊を抱へて居るのてす。私は先の赤ン坊が甦つたのては無いかと驚いた位てした。實際その形があまりよく似て居るからてあります。それて尋ねますと、食へ無いから貰ふのだと云ふて居りました。そして其女は、現金のある間は家に寢てばかり居るのてした。その女は一月てあるのに單衣を着て居りました。勿論蒲團もありませんてした。それて私は衣類と蒲團を與へましたが、すぐ無くして居りました。赤ン坊はその後一ケ月位ゐは生きて居りましたが、濕疹て顏は全く無くなつて居りました。眼も潰れ、鼻のあたりは老人の樣に瘦せ衰へた――それこそ梅干の實の樣てした――とうとう二月の始めに死にました。

それて私は、今度はどうするてあらう――かと見て居りましたが、死んて第一日目には誰れも世話する人が無いと見えて、死骸を抱いたまゝ寢て居りました。第二日目に行つても、そのまゝ死骸を抱いて寢て居りました。それて私は、もう見るに見兼ねて、私も金が無かつたが、質に置いて葬式したのてした。私は此時に、色々な想像が頭に浮んて來ました「然し結局、貰ひ子殺しの心理は、私にわから無いのてした。唯もしや幸にして、子供が一歲の時を經過して飯て大きくなる樣になれば、それから先はどうてもなると考へるのが一つてありませう。それから乞食に行くにも瘦せ衰へた嬰兒を背負つて行くと、同情が多く集るからてもありませう、乞食の間には、最も露骨に、この嬰兒の貸借があります。私は嬰兒殺しを見るほど、悲しいことはありませんてした。

□おいたべらう

それから、最初の印象として私を驚かしたのは貧民の葬式てした。木賃宿に人が死ぬ。『二疊敷』長屋に人が死ぬ。その場合に、私の家の向隣の通名『たべらう』と呼ばれる男が、大きな茶箱を用意して、死體をその中に入れ、一人て背負つて夕闇の中を荷車につんだり、自分の背に負ひなどして、火葬場に送つて居るのてした。之には私も全く驚いてしまつた。そして貰ひ子殺しの多くの類は、この『たべらう』の手にかゝつて火葬場に送られたものてす。貧民の生活の簡單て有る如く、その死も簡單なものてありました。然し私はこれを見て驚いたのは驚いたが、その當時は新聞に書いても反響は無く、どんな手段を取つても輿論が起りませんてした。その當時は隨分神戶新聞を通じて市民に訴へたのてしたが、誰れも直接に行動を共にしやうと云ふものもありませんてした。それて最初の年は十四、次の年は十九の葬式をしたことを覺えて居ります。

□病人の世話

最初の年は、病人の世話などする氣はありませんてしたが、――金が無いのて、或紐育の牧師の夫人が五百五拾圓を私に送られたのて、最初の一年は之てやりました。その當時私の食費は一ケ月五圓位て足りましたから、私は一ケ月五拾圓て十人の食へ無い人を世話することに定めて居たのてした。然し來る人も來る人も重病患者てあるには全く驚きました。私は病人の中に坐つて悲鳴をあげました多い時には五疊の家を五軒かりて、十六人のものが寢て居りました。そしてその多くは病人てした。然し明治四十三四年頃は何を云ふても物價も安かつたので、非常にやりやすいのてした。然し貧民の病人の中に腸結核の多いのには閉口いたしました。私は充分、金も無いし、勉强もしたいし、貧民窟の研究もしたいし、その當時は餘程弱つてしまひました。

□賭博と賣淫

新刑法の當時は餘程善かつたのてしたが、今日て

はまたあと返りした樣であります。之はたゞ警察樣だけては駄目な樣であります。第一家屋の構造貧民窟の道路の形から改め無ければ駄目てある樣です。博徒と喧嘩はつきもので、私は『ドス』（懐刀）て何度脅迫されたか知れません。然し金が無いから大丈夫てした。欲しいものは勝手に取つて行きます。質に入れます。それを私は別にとがめませんてした。

　然し博徒と淫賣婦とが、全く同じ系統にあることを知つて驚きました。色々な淫賣婦と直接に親しくなりました。「おひて」と云ふ淫賣婦、貧民窟の女としては美はしい方てしたが、十三の時から醜業をして、もう男の樣な性格を持つて居る女の打明け話を聞きましたが、私達に向つては優しい優しい氣を持つて居ても、喧嘩をして居る聲などを聞くと、どんな毒婦かと思はれる程であります。

　そしてドン底に落ちると、彼等は決して惡人だとは思つて居りません。仕方が無いと云ふて居ります。それて、いくら說敎しても、口で說くだけでは駄目てあります。金てはとても甦すことは出來ますまい。贅澤することはよく知つて居るのですが、決して勤勉であることは知ら無いのです。それで女の墮落したものなどは、境遇を全部改めて、胸から湧いて出る愛と親切とを以つてしなければ救へ無いと思ひました。今日でも、私の家の前には、毎晩數人の淫賣婦が出て居りますが、彼等は惡いことをして居るとは考へて居らぬ樣であります。『藝者の樣な美人になれぬから、こんなつまらぬことをして居るのだ』と云つて、何回拘留に處せられても平氣であります。然しその淫賣の亭主が、その女の番人であるには驚きます。そしてその亭主は朝から晩まで賭博をして居るのであります。それて淫賣の間では、犬を飼ふ樣な調子で亭主のことを話して居ります。『妾が食はしてやらなきや、あいつは生きて行かれへんね』と云ふて居る。それで男は全く女の前に頭が上ら無いのである。どこの貧民窟へ行つても、淫賣と博徒は居るが、之は容易に根絕することは出來ない。

　然し、私としては博徒や淫賣婦とは實に心易いので、私は知らぬゴロツキが、私を困らせて居ると聞くと、飛んで來て守つてくれるのは彼等である。『弱いものを助けて、强いものを、くぢくと云ふ宗旨ぢやもの、ウチ等は、その法は守れんけれど、先生をいぢめるのは惡い』と町の辻で說敎を妨害せられても、妨害するものを擊退してくれるのは必ずこの博徒の連中である。（少しも依賴をしないのだが、困つた時には先生に世話になるにきまつて居る）と云ふて。

　それて、私の云ふことは、何でも聞いてくれるたゞ賭博だけは止め無い。私が止めよと云へば、その場限りはやめるが、『遊んで居て立派に食へる商賣でも有れば』と、今度は旦那が標準てある。卽ち、淫賣の標準は藝者て、博徒の標準は旦那てあるのだ、藝者も旦那も遊んで居て食へる階級てある。もし貧民が遊んで反社會的なことをして惡いと云ふのなら、藝者と旦那を先づ罰せればならぬのてある。此處になると私はいつも社會の罪惡が今日の產業組織の根底にまて這入つて居ることを思ふので、飽く迄說敎をする勇氣を持た無いのてある。（つゞく）

馬來半島の日本公娼は愈全廢されん

山崎總領事代理主催の下に 馬來半島各地日本人會代表者二十九名及び 新嘉坡日本人會理事等相集まり 日本人會聯合大會を五日より開き宮下新嘉坡日本人會長座長となり 五日馬來半島各地の狀況報告あり 廢娼問題に就き協議し滿場一致を以て海峽植民地及び 馬來半島各地の日本人公娼を自發的に廢業せしむることに努力し 新嘉坡は今年六月迄に 其他は土地の事情により適當なる期間を限り遲くも今年中には全部廢業歸國せしむることに 決定せり、 公娼は新嘉坡に百五十餘名馬來半島各地に 千八百餘名あり聯合大會は六日も引續き開會せられたり



下関 娼妓病院手記（七）

前某驅黴院看護婦 田口和子

『歸つてから奥て叱られたてせう』と或妓が聞くと、平氣な物言ひ振りて『えー、怒るの怒らないのつて、全くお話しになつたものてはありませんてしたよ。おかあさん（樓主の妻）さへも、此の不良腐奴のとか、泥棒畜生とか、薄ノロの癖によくも圖々しく其の樣な眞似が出來るのかと、眼の色を變へてガミ／＼と怒り散らすんてすヨ。けれども肝腎なこちらの本尊樣は、何の寢言か吐いて御座る事か位にしか思ひませんてしたが、奥の方じや餘程口惜しいと見えて何の彼のとて耳が五月蠅ほど種々な事を云つたんてすヨ。』といふのてす。すると他の朋輩も餘りの大膽さと捨鉢さとに驚かされて『あれだから奥からウンと怒られた上に、白根のおぶんさん（當人を周旋した公周旋業者）などから蹴つたり踏んだりされるのてすヨ。』と、同情の含む瞳を以つて見遣るのです。

六日（日曜日）

翠橋樓の入雲さんが自由廢業をしたのは、遂此の二週間許り前てあつた。當人の自由廢業に關する手續を取扱つた警察官の、極めて公平なる態度であつた事を深く感謝する次第でありますが、今日も今日とて又もや榮さんといふ人が廢業屆を生國の出雲の國より郵送して來たから早速娼妓名簿を删除したからといふ通知が警察から來たといふ話を聞いて非常に嬉しく思ひました。聞けば其の榮さんといふ人は、嘗て朋輩であつた河内さんといふ人が、約束の年限さへ濟ませば最う充分だ。勤めやうとする時に借りた金は一年足らずてすてに返濟になつて居る筈だからと云つて、約束の年限が來た時どうしても商賣は廢めますと云つて諾かなかつたさうてした。けれども人の生血を搾つて生きてゐる樓主の事てすから、其處のところは何とかして長く引張つて置いて稼がせる丈け稼せなければ損が行くといふ考へから、イヤまだ借金が四百圓許り殘つてゐるから、廢業させる事は何うしても出來ぬ。若し强ひて廢業したいならば、其の四百圓といふ大金を廬張りと拂つて出て行つて貰ひたい。さもなくば四百圓に對する稼ぎをして貰はなくてはならないと主張するので、きかぬ氣の河内さんは何處をどう工面したものか百圓の金を得、そしてそれを樓主の前へ投付けて二の句もなく廢業を遂げた事を知つて居るから、それて故郷の母親が病氣に罹り其の見舞に行つた機會を捉へて廢業する事になつたのだと思はれます。それにしても手紙て廢業屆を出せば廢業が出來ると知つた本人も、確に自覺したが爲めてあるが、警察官としても從來の慣習から觀ると餘程進步した處置に出てた事は謂ふ迄もない事てある。お互が斯うして目醒めて行きさへすれば、社會の暗黑面が全然掃蕩されぬにしても、餘程此の方面に對する社會の態度が一變し、延いては婦人を尊重するやうになる事は當然だと思はれます。隨分物事の判つたやうな人達ても、金の爲めに身を賣つて置きながら、其の金も返さずに自由廢業などゝいふ事が出來る道理はない抔といふものもあるにも拘はらず、實は何も知らない無智なそして動物に近いと迄に批評されつゝある彼等の中にも、斯樣に人間として目が醒めたといふ事を聞いては、何よりも嬉しく感ずるのであります。

九日（木曜日）

私とおすみさんとが仕事の片付いた休み合間に、世間話に花を咲かせてゐると、折しもどや／＼と階段を降りる多勢の樓主、何事ならんと奇異の感に打たれて、そつと覗けば一間を隔てた隣室（檢査日に於ける先生の控室）に、取締初め其の他の組合役員達が、一人の優男を捉へて樣

元を捕へて突飛したり、或は腰のあたりを『是れても白状しない。』と蹴つたりしてゐたのです。おすみさんに聞くと『あの男が此の間の、それ一福楼の〇〇さんを逃がして遣つたものですよ。種々な智惠を附けて到頭行衛不明といふ事にして了つた事が判つたものですから、それで彼の樣に皆樣から攻められてゐるのですヨ。』と云ふてゐるのです。けれども私は其の人間一人を助けた男が、目の前で種々な折監を受けつゝあるのを見ては、突然其處へ飛出して男の方へ味方し、何うしても此の男を助けて遣らなければならないやうな心が致しました。『如何に自分が悪いと知つたとて、あれ程酷いめに會はずに、正當な事を言ふも差支なからうし、又た如何なる罪があるにせよ、其の損害主が自分自身で損害を掛けた人だからと云つて、無暗に打擲するやうなそんな不法な事がありますかね。私が行つて止めて遣つて上げやうと云ふをおすみさんは妙な顔をして『成程それは可哀相は可哀相さ。けれども男が餘りに剛情だからですョ。早く白狀して畢へさへすれば何にもあんな酷い目に會ふやうな事がないのですのにそれが彼の通りどんな事をされても一口も其の事を云はぬからなんですョ。』さうこうする內に、男は彼等の爲めに殆ど半死のやうな有樣となつて畢つたにも拘はらず、尙ほ酷く打擲を續けてゐるのでした。

今で考へて見ると、私はあの時位切ない思をした事はありませんでした。哀れな婦人を助けた其の報ゐが賞讚と喜悅と滿足とを與へられずして、却つて彼の樣な辛慘な目に會つて、加も一口も其の事に就ては云はうとしないやうな否云へば其處に何等かの不安が醸されて來るに相違ないといふ懸念からたとへどんな事をされても只默まつてゐなければ、人を助けるといふ其の目的を貫徹する事が出來ないといふ樣な社會が、現代に於ても未だ或勢力の下に殘されてゐるといふ事を考へ、私は何故か今日の社會といふものが餘りに無自覺すぎるといふやうな氣がしてならないのです。人身賣買はないと誰でも云つて居ります。けれども眞實に人身賣買といふものがないならば、藝娼妓が廢業して堅氣になりたいと云つて、官廳に屆出てた時に何故本人の意思を聽容れぬのでありませうか。本當に人身賣買といふものがないならば、本人が此の樣な商賣をやるのは嫌になつたから、何うか堅氣な眞面目な人間になりたいと云つて居出る、其の願ひを何故採用せぬのであらうか。警察では金を借りてある身體だから金を拂はぬ內は、決して他の堅氣な商賣を爲す事は出來ないと大抵は受付けないのが通例です。金を借りたから金の爲めに何處までも醜業を續行せよと命ずる其の主意は、誰が考へても、人身賣買といふ結論に到達せぬてあらうか。本人自身で廢業する事の出來ない、云はゞ無智な彼等に人間の眞價と國法の有難さを敎へ、そして本當に一個人を精神から救出した男が、あのやうにされるといふ事を見ては、全く私の考へとしては此の世の中といふものが、眞の生地獄であるとしか思はれないのです。私は今でも其の時の氣持を忘れずに居ります。犧牲といふ其のものが形の上に現はれる事は、却々容易いものではありません。私は其の時その犧牲になつてゐる、本人自身も又た犧牲にならんとしつゝある現狀を見ては、其處に大なる神の存在といふ事を泌々感ぜられました。

…………そして私は行詰るやうに涙ぐみました……—結局巡査が來て何うの斯うのとゴタ〳〵して居りましたが、突然ヒシヤリといふ音と『此の噓つき奴、貴樣は僅か一婦人の爲めに何んなに酷い目に會ふか知れないてはないか。それまで藝妓のやうな人間を庇ばふた處て何になる。僅か一婦人の爲にそれ丈けの我慢をして、それで男の價値が上ると思ふのか此の馬鹿奴!!』と頻りに一婦人〳〵を連發して、又もや男を散々擲るのでした。

僅か一婦人――　僅か一婦人――

しかし此の場合の僅か一婦人といふ其の意味は、少くとも世間にありふれた僅か一婦人の爲めに身を過つたとは餘程其處に大なる差があるのではなからうか。多くの若い男も矢張り僅か一婦人の爲めに身を過つて遂に拭ふ可からざる傷を負ふのであります。そは矢張り此の花柳界と稱せられる處の、貞操の切賣りをする所謂放蕩は差支なしといふ官許が、延いて一婦人の爲めに身を持崩して畢ふに至るのであります。何にしても一婦人の爲めてはありませうけれども、一は自分の我慾からてありますが、他は即ち其の一婦人、一婦人は多くの男の一生を過まらせるその者を救ふて、一婦人も又多くの男子も救はふとする其の心根は實に何とも謂へやうのない尊さを感ぜられるてはありませんか。若し社會の男が少くとも此の人の半分だけでも、眼が開くやうになつたなら人類も定めし幸福になるてあらうと思はれるのであります。

十九日(日曜日)

今日も又た病院事務所室で六七人の樓主が酒宴を初めたと見えて、銅羅聲を張上げての卑猥な唄を唄つてゐるのです。おすみさんも毎日の厄介に程々弱つたと見えて『何ぼ何んでもあ！毎日のやうに遣られては全く遣れ切れないネ。何うして廓の旦那方といふものは、あゝも酒を呑みたがるものかネ。』

愛する皇室中心主義者へ

東京　曾根正藏

此程某新聞紙に依りますと、近來神田邊に何々大學の學生諸君が、皇室中心主義反對ぼくめつ運動とか起して、中々盛なる由を承知したのであるが、誠に結構なる事で其心掛けは感服します。私も其如き運動は大贊成であります。實に神の子キリストに誓て贊成です。若し其樣な運動に時間日限あるなら眞實働きたいのです。併し一般の說を伺ひますと、何にか救世軍が其主義のさまたげをするとか申しますが、それはまちがいでしよう。今日の救世軍は皇室中心主義でありますと思はれます。無論救世軍人はクリスチャンでありますが故に、私も此運動に赤心贊成せざるを得ないのであります。處が此程新築せられた其本營に向つて、瓦石を投じ窓硝子を破壞し、又は山室軍平氏を賣國奴呼はりさへ爲す者があると聞きますが何の爲てすか。如斯の迫害は山室先生は反つて喜んで居らると思ひますが、其暴行暴言を敢て爲すが如き者は、無論皇室中心主義者てはない事は判然して居るから、我等基督教者は此不可解の兄弟の爲めに祈らればならぬと責任を感ずる次第てある。彼のカルバリーの山頂に於ける十字架に掛り給へる主キリストが『父よ彼等を赦し給へ其爲す處を知らざるが故なり』と路加廿三〇三四節にある通りてある。畏くも皇室中心主義とは　天皇陛下中心主義と云はねばならぬ。其中心主義を仰ぐ帝國の民其紳士たるの態度にある可き筈の者が、暇りにも瓦石を投じて暴行を逞しうするとは實に沙汰の限りてある。彼のユダヤ民族が、キリストをして亡國の民と敢て誤解した結果、それを十字架に掛け、遂には自國を亡ぼした當時の光景が思ひまはされて、其人々は多勢をたのみに只さわぐのみてあるから、眞に國家の爲めに憂ふ可き事てある。單に救世軍の辻傳道の太鼓の音が癪に障る位の事て、しかも幾個かの大學學生が何百何千と大擧してわめき立つるとは、實に大人なげないなさけなき次第てはあるまいか。クリスチャンは世界的二十世紀的現代的てある。低い東洋道德を尊重し古い諺てはあるが、井中の蛙的ては今日間に合はぬのてす。故に世界に對する人道的見地から、皇國の臣民たる以上は其中心主義を是非共發揮せればならぬ。

愈々畏きことながら舊きを捨てゝ新らしきを求め、天地の公道に基づく可し智識を世界に求めよとも命ぜられた　先帝陛下のみことのりを忘れてならぬ。

廓清會講演會に就て

長野　山口義緣

長野市に廓清會講演會の開催されしは十一月十五日夜の七時から縣町のメソジスト教會堂に於て開催された。本部より當地に開催するから、會場の借入れや廣告をせよとの報を得たのは十月の下旬てあつた。吾等に取つては始めての事てあり、又人を集むると云ふ事は何となく恐ろしい樣な氣がして不安を感ぜずには居られなかつた。不安は次から次と吾等の胸を襲つて來て社會は吾等の意のある所を入れ正義の爲め人々に一夕の暇を與へ、吾等の此の擧を贊して與れるてあらうか杯と不安を感じつゝ十五日の夜を待つた。けれども社會は吾等の思ふ如く冷淡の者てはなく、寧ろ慈母の如き溫味が有り、掬すべきの愛を宿して居る者てあると感じた。結果は豫想に反した事實を吾等に與へて與れ、十五日の夜は立錐の餘地もなく定刻よりも少しく遲れし人々は入場する事を得ずして會場の外にて傍聽せし人の多數あるを見受け、廣き會場を借り入れ得ずして多數正義の士を得ながら目的を果し得ざらしめた事を甚だ遺憾に思ふと同時に、其の罪の甚大なるを思ひ其人々に對し深く謝して居る次第てある。

定刻より稍遲れてノルマン氏の開會の辭に始り、伊藤廓清會主事の會の主意を述べられし後『男性淘汰より女性淘汰へ』は現時の眠れる男性に對し一大痛棒を加へ、然して大に男子に覺醒を與へし事と思はれた。終て島田會長の『社會問題の根本解決』なる題の下に威嚴整々として犯すべからざるの偉貌を持し演壇に立ち、破顏一笑左右を睥睨され疊摩一番、社會の缺陷矛盾を述べ例を古今東西に求められ、論據明徹に、戒を現在より未來に示され、長講舌二時間に及ぶも飽る所を知らず、聽者懸河の辯に魅せられ咳一つなく、宛然深山幽谷の如く聞ゆるは演者の聲のみ。十時を報ずるや演說了り新會員四十名餘を得て會を閉づる事になつた。終りに臨み今度の講演會に依て得たる教訓と失敗とを述べ、後車の戒めとなさん。抑々講演會の成功不成功は人の多數集るに依て功あるは萬人知悉の事なるべし。人多く集むる事は至難の事なり、されど廣告の優れる時は、以外の成功を得るものなるを覺れり。廣告の妙は智識階級を取り入るにあり。されば吾等は此の筆法に倣ひ諸官署學校等に案內狀を發し大に成功を來せり。以上は人を集むる手段にして人を集めし以上は半の成功なり。之れよりは演者の苦心を要すると同時に手段の宜敷を得ざれば半の成功も畫餅に等しき結果を來すものなり。今度の講演會も會員加入勸誘に於て畫餅に至らずとも些か遺憾の點ありたり。傍聽者に會の趣旨を披瀝したる後、直に申込書を頒布して正義の士を集むるは閉會後に申込書を頒布して集むるよりは效果多きと吾は思惟せり。今度の講演會に於て前者の方法を取りたるものなり。後者の方法を取り然して得たる新會員と舊會員と閉會後に會見し步調を整へ進むは萬事の點に於て有利なり此點に於て失敗を來せり。教訓に於ては『正義は萬事に勝る』の古諺に裏書せるを目擊せり。同夜は長野市に種々の催しありしにも係らず、知識階級の大半は廓清講演會に集り、剩さへ豫期に近き正義の士を得たるは欣幸の至りてある。又一面多數女子の傍聽者ありしは、吾々同志の大に意を强ふするに足るものありたり。

廓清會員諸君よ。日本の女性は今や永き眠りより醒めんとしつゝあり。近き將來に於て我が廓清會の主義も女性の覺醒と兩々待つて功なるを目擊したり。吾々正義の士は新舊會員叫合して當地に支部を設置し聲を大にして社會の啓蒙を期せんとす。

能代支部の活動

◎本部が男女問題の外に勞働問題をも取扱ふことを議決するや、逸早くも共鳴して活動を起したるは能代支部にして、左に北羽新報の報ずる處を抄錄せん。

既報の如く去る二十日夜七時より富町偕樂社に於て廓清會支部主催の下に織工組合、青年團、廓清會竝に資本家智識階級等の聯合懇親大會は開かれ、時に小雨を浸して來會する者定刻既に百餘名滿堂の盛況を極め近來の盛會なりき。來會者に井坂秋木社長、菊池季吉氏、島田豐三郎氏、坂本定德氏、西村莊右衞門氏、熊谷直秀氏、宮內郵便局長、八代稅務署長、山形警察署長、松野一也氏、木場貞二氏、和田龍造氏、柳谷常藏氏、佐藤與三郎氏、小仲千代吉氏、山田哲一氏、關虎太郎氏、戸島虎之助氏其他各方面の智識階級の者名士大多數と勞働團體に於て組合幹部三十餘名、竝に青年團幹事廓清會會員等の出席あり、定刻主催者側を代表して西村莊右衞門氏開會を宣し續て和田龍造氏は刻下の勞働問題より先づ其の解決の根本として勞資の人格向上を期するは最大の急務なりと論じ、資本家を代表して柳谷常藏氏は現今の勞働問題より資本家の自覺と勞働者の覺醒を促し婦人問題に及び家庭の改造と、勞働問題解決とは緊急の急務なりと明快に論斷せり。最後に島田豐三郎氏勞働問題の概念より脚下に起りつゝある能代の勞働問題に論及し、勞働者の自覺も急務なれども、更らに資本家の思想の反省並に覺醒は急務なりと各方面より論じ、勞働時間短縮後の風紀問題に付き須らく此に健全なる娛樂機關を與へよと約一時間に涉り論理整然、引論適確にして諄々として勞働問題の爲めに熱辯を振へり此に會を閉ち次に雜談會に移り坂本定德氏の發議に依り勞働時間短縮の問題に就き意見の交換をなし各自歡談を交へ時に十時滿堂盛況裡に散會せり。

◎なほ左は同支部理事の一人たる淺野吉十郎氏より寄せられたる最近の報告である。

能代支部に於ても昨年來の問題たる遊興稅に就て、之が實地運動のため去る八日緊急理事會を開催し、町當局に建議實行を迫まるに決し、建議案實行委員に西村莊右衞門氏を舉げ、起草委員に和田龍造氏と小生を推され、申し候。尙ほ普選問題に就ては全然公正なる見地に立ちて健全なる思想鼓吹の爲め本月下旬に會合する事に決定仕候。之れが具體的活動次第報知可仕候。小生等が中心になりて勞働團體と一大聯盟の上、勞働時間短縮後の勞働者の啓發のため、茲に一大會館を設立致度決心にて、其豫算は約一萬圓の豫定、內容は講演會々場、食堂、娯樂室、圖書室、の設備をなし、其他郊外運動場の設備、青年補習教育たる勞働夜學校の設備、勞働者の人格の向上に努力致度と存居候。

編輯之後

▲先般來屢々東京の遊廓に張店を復活するやの情報が頻々として記者の手許に達するので、とう〳〵捨て置き難く去る十二日警視總監を訪ふた。生憎出掛けてゐる處だといふので、保安課長の平某氏代つて面會し、事實の有無を問ふと、そんな事は全然初耳で、當業者の運動すら自分の手許には一切ないといふ事で、安心して歸つて來た。

▲飛田遊廓設置當時の一理由として、將來市內に散在する遊廓の整理の爲め、卄地に二萬坪の指定地を設くといふ事であつたが、今度難波新地六百數十軒の貸座敷又は關係業者中、百八十軒市區改正によつて取拂はるゝ事となり大恐慌を起してゐる。右につき所轄島の內署長は機會ある每に廢業せしむるの方針だから、飛田へも移轉せしむるではないと云つてゐる。

▲尾道市では婦人矯風會長柴原浦子女史主唱の下に『結婚同盟會』なるものを組織し(一)品性高潔なる士、(二)大酒を好まざる士、(三)花柳病に冒されざる士、以上の男子を選擇して結婚すべきことの誓約をなさしむる事となつたが、既に二百餘名の處女より加盟申込があつたといふ。斯の如きは實に結構な企てゝ、嘗て私が男性淘汰より女性淘汰へ』と題して、婦人の結婚ストライキを說いた事があつたが、正に此種の會の起るべきことを論じたものである。乍併禁酒の士とせずして大酒を好まざる士としたのは、餘りに生溫い感に堪えない。道德程度の曖昧な態度は結局不得要領に終るであらう。

▲鍋島子爵の令孃とし子が、同邸の自動車運轉手多田某と驅落したといふので、又大分世間の問題となつた上流社會の　敗は確に想像の外であらうと思ふ。又これなども戀愛が地理的關係だといふ議論の一證左である。健全なる男女交際の道が開かれなければ、對手の何人たるを問はず、地理的關係に於て最も近接せるものと隋落し去るは免れぬ如く見ゆる。

▲之は確に家庭も學校も社會も、男女道德に對する敎育を等閑に附してゐる結果で、殊に男子に充分なる貞操の觀念を養はしむる樣、社會及學校に於て努力しなければ、斯うした妄動は絕えないであらう。其結果は必ず悲劇に終るべきは明なるに、世間更に反省する處なく、舊慣を持して改めんとせないのは何たる愚さぞ

▲それには先づ第一に公娼制度を廢止し、藝妓を淫賣婦として檢擧に努め、花柳病男女の結婚を禁止し、學校に於て男女の貞操の倫理を敎へ、健全なる男女交際の道を開き、誘惑的な社會の制度を取拂つて、純潔な鼓吹する廓清會矯風會の樣な團體が盛んになれば、家庭の悲劇の大部分は無くする事が出來る。

▲豐橋市では松田署長が風紀改善を圖つて酌婦狩をしたので、藝妓名儀に變更する者多く、現に五百餘名の藝妓を算するに至つたので、署長自ら藝妓の遊藝檢査を行ひ、不合格の藝妓はドシ〳〵鑑札を返上させる事にしたとのこと。

▲在米日本人會が排日運動緩和の一策として、日本人の寫眞結婚禁止を決議したることは曩に報道した如くであるが、右に對し移民の本場たる廣島縣海外協會は是れ海外發展の大打擊である。在米同胞多數の意志ではないとして、內田外相に對し長文の反對意見書を提出したといふ。寫眞結婚が非人道的のものであることは言を俟たぬ。之に對して憶面もなく反對を唱ふる者あるは同胞の顏汚してある。

▲東京府の遠藤事務官は、生活改善、節米策の一手段として獻酬廢止論を主張し、盃洗の中に捨てる高が米百二十萬石即ち約六千萬圓に當るとて、獻酬廢止の宣傳を行ふ積りだとのこと。百尺竿頭一步を進めて禁酒論に達しなければ、そんな不徹底な運動は何の効果も擧ぐべきではない。(白萩)

大正九年一月廿日印刷
大正九年一月廿日發行　（毎月一回十日發行）（一部定價金拾八錢）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　本鄉區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會發行所
電話神田三八〇一番
振替東京二七〇七二番

◉廣告主へ御用の際は必ず雜誌「廓清」によるる旨御申添を乞ふ◉

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori, Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

——→Dr. K. TAKATA←——

Within a few minutes from the Chigasaki Raiway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone: Chigasaki No. 2.

院長 診察、月、木、金午前及木午後六時

診察毎朝及毎夕 但祭日及日曜の他

林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地（市ケ谷見附内）

電話番町 一六二番 五一六番

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

南湖院

電話ちがさき二番

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後 入院診後應需

診察毎日午後 但祭日及日曜の他

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可）（毎月一回十日發行）
（大正九年一月二十日印刷納本）

大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋、
警醒社、北隆館、



定價壹冊金拾八錢